

平成 30 年度 スポーツ庁委託事業

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業報告書



早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
(WASEDA RESEARCH CENTER FOR OLYMPIC & PARALYMPIC EDUCATION)

平成 31 年 3 月

本報告書は、スポーツ庁委託「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」として、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターが実施した平成30年度の事業成果を取りまとめたものです。

したがって、本書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要となります。

はじめに

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター（WASEDA RESEARCH CENTER FOR OLYMPIC & PARALYMPIC EDUCATION：以下、早大オリ・パラセンター）は、スポーツ庁が推進する「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」の委託を受けて、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを全国に波及させることを目的に平成 28 年 7 月に設立されました。

今年度で 3 年目を迎えた本センターでは、引き続き、2020 年のオリンピック・パラリンピック東京大会の成功に向けて、オリンピック・パラリンピック競技大会並びにスポーツに対する市民の理解を深め、その興味・関心を高めることを目的として活動を行って参りました。今年度は、昨年度の札幌市、岩手県、岐阜県、静岡県、広島県、熊本県に、新たに埼玉県、横浜市、静岡市、滋賀県、香川県を加えた 8 県 3 市のオリンピック・パラリンピック教育推進地域（以下、オリ・パラ教育推進地域）の教育委員会の方々と連携し、当センタースタッフ一同が一丸となって、オリンピック・パラリンピック教育（以下、オリ・パラ教育）の一層の推進に努めて参りました。

今年度の主な活動内容と致しましては、以下にお示しする通りです。

- ① オリ・パラ教育推進地域を対象としたセミナー並びにワークショップの開催及び支援
- ② オリ・パラ教育推進校の児童・生徒を対象としたオリンピック・パラリンピック教育の支援
- ③ 本センターのホームページでのオリンピック・パラリンピック教育に資する各種情報の提供

今年度は、これらの取り組みを通して、本センターから各オリ・パラ教育推進地域にオリンピック・パラリンピックの魅力やスポーツの素晴らしさを発信することに鋭意、努めて参りました。今年度の本センターの取り組みによって、各地域の児童・生徒、先生方、そして市民の方々がオリンピック・パラリンピックを身近に感じて頂き、また興味・関心を高めて頂ければ、私どもセンタースタッフ一同にとって望外の喜びでもあります。

末筆になりましたが、本センターの事業推進にあたりまして、多大なご協力を賜りましたスポーツ庁、オリ・パラ教育推進地域の教育委員会の方々、及び関係各位に衷心よりお礼申し上げます。

本報告書は、今年度、本センターが取り組んで参りました各事業についての報告ではありますが、是非ご一読頂き、忌憚のないご意見等を賜れば幸甚に存じます。

平成 31 年 3 月

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
センター長 友添 秀則

目次

< 事業概要 >

1. 目的と内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2. 事業体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
3. スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

< セミナー 実施報告 >

1. 全国セミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
2. 地域セミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

< オリンピック・パラリンピック教育推進校 実施報告 >

1. 札幌市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
2. 岩手県・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
3. 埼玉県・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
4. 横浜市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
5. 岐阜県・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
6. 静岡県・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
7. 静岡市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
8. 滋賀県・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
9. 広島県・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
10. 香川県・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
11. 熊本県・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63

< ワークショップ 実施報告 >

1. 地域ワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
2. 全国ワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88

< 事業概要 >

1. 目的と内容

本事業の目的は、地域の人々のオリンピック・パラリンピック競技大会、さらにはスポーツに対する興味・関心を高め、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会の成功に向けての機運を盛り上げることであった。早大オリ・パラセンターは、国内11地域（札幌市、岩手県、埼玉県、横浜市、岐阜県、静岡県、静岡市、滋賀県、広島県、香川県、熊本県）の教育委員会等と連携して、主に以下の3つの事業を行った。

I. オリ・パラ教育推進地域におけるセミナー並びにワークショップの開催及び支援

学校におけるオリ・パラ教育を推進するために、オリ・パラ教育推進地域の担当者を対象とした全国セミナーを開催した。さらに、オリ・パラ教育推進地域において、オリ・パラ教育推進校の教員を対象とした地域セミナーの支援を行った。各セミナーでは、オリ・パラ教育の理念や実際にオリ・パラ教育を学校で実施するための方法などについて指導を行った。

各オリ・パラ教育推進地域における実践終了後には、オリ・パラ教育に関する情報共有を行うために、オリ・パラ教育推進校の教員を対象とした地域ワークショップを行った。さらに、全てのオリ・パラ教育推進地域におけるオリ・パラ教育に関する情報共有を行うために、各オリ・パラ教育推進地域の担当者を対象とした全国ワークショップを開催した。各ワークショップでは各種学校で実践された教育事業の内容や、オリ・パラ教育の実践を通して明らかになった成果と課題について紹介及び共有を行った。

今年度から地域セミナー及び地域ワークショップにおいて、各推進校の実施計画を立てたり、各推進校で行った実践に関する情報共有を行うためのグループワークを実施する地域が見られた。その際には、各グループワークに参加しながら、推進校の教員の質疑への対応を行ったり、話し合いを促す声かけを行った。

II. 児童・生徒を対象としたオリンピック・パラリンピック教育の支援

各オリ・パラ教育推進地域では、教育委員会の方を中心に、いくつかの各種学校をオリ・パラ教育推進校と指定し、本事業を実施した。オリ・パラ教育推進校では、オリンピック・パラリンピアンが派遣され、講演や実技指導が行われた。講演では、オリンピック・パラリンピアンにより、オリンピック・パラリンピックの素晴らしさやスポーツの価値について児童・生徒が気付く機会が提供された。実技指導では、児童・生徒がオリンピックやパラリンピック競技種目を実際に体験することで、オリンピックやパラリンピックを身近に感じさせるとともに、パラリンピックや障がい者スポーツに対する理解を深め、関心を高めることが目指された。また、これらのオリンピック・パラリンピアンによる実践に向けた事前指導及び実践で得たことを元にした事後指導も行われた。

III. オリンピック・パラリンピック教育に関する情報発信

オリ・パラ教育をより充実したものにするために、ホームページを通して、実践事例を中心としてオリ・パラ教育に関する情報発信を行った。

2. 事業体制

本事業は、平成 29 年度同様、以下の事業体制に基づいて実施された。

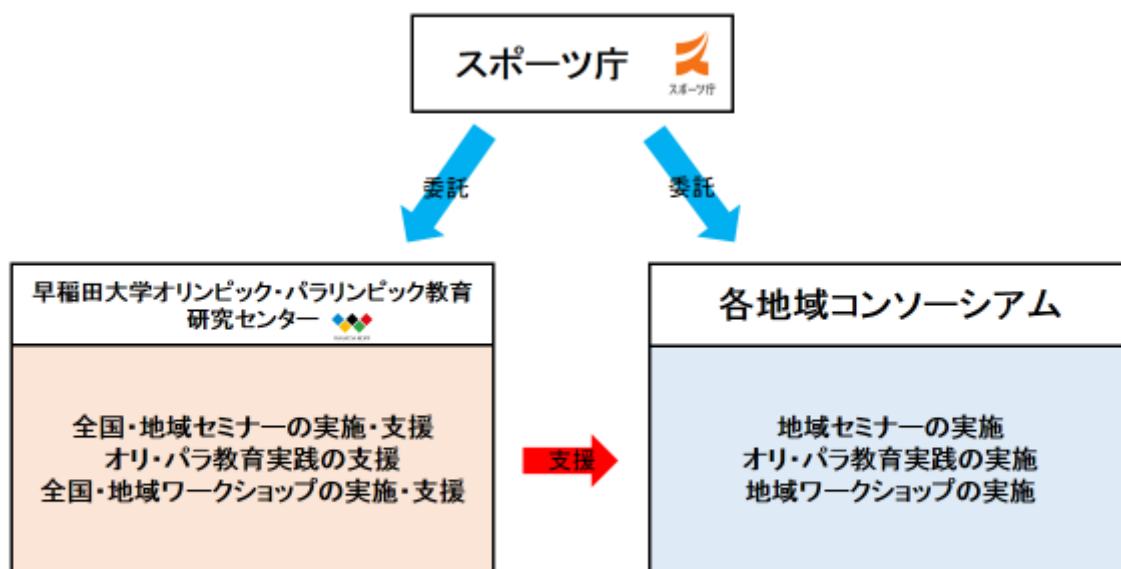
まず、スポーツ庁や 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会などで構成された、以下のようなオリンピック・パラリンピック教育全国コンソーシアム（全国中核拠点）を結成した。

＜全国中核拠点 組織図＞



さらに、スポーツ庁と各オリ・パラ教育推進地域が直接委託契約を結び、早大オリ・パラセンターをはじめとする全国中核拠点の大学がそれぞれ担当する地域を支援するという、以下のような体制が整備された。

＜全国中核拠点と地域拠点の関係図＞



3. スケジュール

本事業は、以下のスケジュールに沿って実施した。

＜本事業の実施スケジュール＞

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
事業内容		第1回 全国セミナー 開催		第2回 全国セミナー 開催						地域 ワークショップ 支援		全国 ワークショップ 開催
				地域セミナー支援								
							オリパラ教育実践支援					報告書作成
会議	①			②			③			④		⑤

＜中核拠点会議の内容＞

- ・ 第1回：4月17日（火）
年間スケジュールの確認、関係団体の取り組みの情報共有、全国セミナーの概要確認、オリンピック・パラリンピアンへの派遣について
- ・ 第2回：7月11日（火）
地域拠点二次募集結果の報告及び担当拠点の決定、第1回全国セミナーの振り返り、各団体からの報告、地域セミナーの実施状況
- ・ 第3回：10月29日（月）
マスコット投票について、各中核拠点の進捗状況、全国ワークショップについて、スポーツ庁からの報告（次年度予算等）、各関係団体の報告
- ・ 第4回：1月15日（火）
各中核拠点の進捗状況、全国ワークショップについて、スポーツ庁からの報告（次年度予算案、今年度新事業等）、各関係団体の報告
- ・ 第5回（予定）

< セミナー 実施報告 >

1. 全国セミナー

【 第1回 】

日時：2018（平成30）年5月18日（金）14：00-17：00

会場：筑波大学東京キャンパス文京校舎 119 会議室

主催：筑波大学、日本体育大学、早稲田大学

参加者：約 70 名

プログラム：

14：00-14：05 開会挨拶

スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課 課長 勝又 正秀 氏

14：05-14：25 全体概要

筑波大学体育系 教授 真田 久 氏

14：25-14：55 各学校段階におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践例について

筑波大学体育系 助教 大林 太朗 氏

日本体育大学オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

特別研究員 秋和 真澄 氏

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

主幹研究員 吉永 武史 氏

14：55-15：55 関係団体事業および教材等について

東京 2020 組織委員会 アクション&レガシー担当課長（教育担当）

塩見 絢子 氏

東京都教育庁指導部 オリンピック・パラリンピック教育推進担当課長

河野 浩二 氏

日本財団パラリンピックサポートセンター 推進戦略部／広報部 ディレクター

本山 勝寛 氏

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 参事官

御手洗 潤 氏

15：55-16：05 休憩・移動

16：05-17：00 全国中核拠点（担当大学）と各地域拠点の打ち合わせ



全体会の様子

開会行事では、スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課の勝又正秀氏より挨拶があり、続いて、真田久氏（筑波大学教授）より、本事業の概要について説明がありました。次に、全国中核拠点の大林太郎氏（筑波大学）、秋和真澄氏（日本体育大学）、吉永武史氏（早稲田大学）より、担当する各地域拠点の推進校におけるオリ・パラ教育の実践例について紹介がありました。さらに、オリ・パラ教育を実施する際に参考となる情報として、塩見絢子氏（東京 2020 組織委員会）からは「TOKYO 2020 for KIDS」等、河野浩二氏（東京都教育庁）からは東京都におけるオリ・パラ教育の関連事業等、本山勝寛氏（日本財団パラリンピックサポートセンター）からは「I'mPOSSIBLE」、そして、御手洗潤氏（内閣官房東京オリパラ推進本部）からは共生社会をテーマとした学習のための映像資料等の紹介がありました。

その後、別室にて、全国中核拠点の大学と各担当地域拠点の担当者が打ち合わせを行いました。早稲田大学担当の打ち合わせは、担当地域拠点のうち今回のセミナーに出席されていた札幌市、岩手県、埼玉県、横浜市、静岡県、滋賀県、広島県、香川県の担当の方々と、それに加え、現在、事業への参画を検討している地域の担当の方々によって行われました。打ち合わせの内容は、主に、今後の事業や手続きの進め方についての確認と、今年度の事業を進めていく上での課題や不安要素となる点についての意見共有でした。

昨年度から継続して本事業に取り組む地域拠点からは、昨年度よりも推進校を増やして展開していくことや、教員セミナー等の早めの計画・実施、また、一時的なイベントにしないための継続的な取り組みおよび、そのための準備の重要性についての意見等が出されました。一方で、今年度から本事業に取り組む地域拠点から挙げられた課題として、推進校へオリンピック・パラリンピアンを派遣するためのノウハウがないという点が挙げられました。この点に対する手立てとして、昨年度の岩手県や静岡県、熊本県の取り組みが紹介されるとともに、地域拠点間の協力体制の構築が必要であるとの共通理解が図られました。その他にも、学校現場が感じる負担感や、特別支援学校での実践に対する支援の仕方についての課題が出されました。それらの課題に対しては、「I'mPOSSIBLE」等の様々な教材や、ホームページ上で公開される指導案、また、札幌市が作成したオリ・パラ教育冊子を参考に、あるいは、活用することで、今後の実践を円滑に進めることができるのではないかという意見が出されました。オリ・パラ教育の推進に向けた本事業の、今年度の第一歩として有意義なセミナーとなりました。

【 第 2 回 】

日時：2018（平成 30）年 7 月 25 日（水）14：00-17：15

会場：筑波大学東京キャンパス文京校舎 119 会議室

主催：筑波大学、日本体育大学、早稲田大学

参加者：45 名

プログラム：

14：00-14：05 開会挨拶

スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課 課長 勝又 正秀 氏

14：05-14：20 事業概要説明

筑波大学体育系 教授 真田 久 氏

14：20-14：50 各学校段階におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践例について

筑波大学体育系 助教 大林 太朗 氏

日本体育大学オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

特別研究員 秋和 真澄 氏

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

研究員 岡田 悠佑 氏

14：50-16：10 関係団体事業および教材等について

東京 2020 組織委員会 アクション&レガシー担当課長（教育担当）

塩見 絢子 氏

東京都教育庁指導部 指導企画課 指導主事

小宮山 詠美 氏

日本財団パラリンピックサポートセンター 推進戦略部 プロジェクトリーダー

徳留 圭吾 氏

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 参事官補佐

栗田 信行 氏

WOWOW 制作局 制作部 「WHO I AM」チーフプロデューサー

太田 慎也 氏

16：10-16：15 休憩・移動

16：15-17：15 全国中核拠点（担当大学）と各地域拠点の打ち合わせ

初めに、スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課の勝又正秀氏からの挨拶がありました。本セミナーのちょうど前日に 2020 年の東京大会まで残り 2 年となり、今後、東京大会に関する様々な具体的な事項が決まっていく中で、2015 年に始まった本事業もより一層充実させていきたいとのことでした。次に、真田久氏（筑波大学教授）より、事業の概要説明がありました。本事業への参加自治体が毎年度増加して

いること、また、2020年の後のレガシーとして何を残せるかが重要であるとの内容が話されました。続いて、全国中核拠点の大林太朗氏（筑波大学）、秋和真澄氏（日本体育大学）、岡田悠佑氏（早稲田大学）より、推進校におけるオリ・パラ教育の実践例について紹介がありました。さらに、関連団体における取り組みや参考資料として、塩見絢子氏（東京2020組織委員会）からは「ようい、ドン！」プログラム等について、小宮山詠美氏（東京都教育庁）からは東京都におけるオリ・パラ教育の関連事業等について、徳留圭吾氏（日本財団パラサポセンター）からは「I'mPOSSIBLE」の活用方法、栗田信行氏（内閣官房東京オリパラ推進本部）からは共生社会がテーマの映像資料等について、そして、太田慎也氏（WOWOW制作局）からはドキュメンタリー映像「WHO I AM」が、紹介されました。



全体会の様子



岡田 悠佑 研究員

その後、別室にて、全国中核拠点の大学と各担当地域拠点の担当者が打ち合わせを行いました。早稲田大学担当の打ち合わせは、岩手県、静岡市、広島県、熊本県の担当の方々で行われました。打ち合わせでは、各地域拠点の進捗状況や今後の予定、また、推進校において事業を展開する上での課題とそれに対する解決策等について意見交換がなされました。特に、推進校へのオリンピック・パラリンピアンへの派遣に関する課題は、本センターや各地域拠点が連携することで解決を図ろうとの意見が共有されました。



早稲田大学と各地域拠点の担当者との打ち合わせの様子

2. 地域セミナー

【 札幌市 セミナー 】

日時：2018（平成30）年8月31日（金）14：30-17：00

会場：札幌市教育委員会 6階 会議室 AB

主催：札幌市教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：36名

プログラム：

14：30-14：35 開会の挨拶

札幌市教育委員会学校教育部教育課程担当課 指導主事 末原 久史 氏

14：35-14：55 オリンピック・パラリンピック教育の実践報告（三里塚小学校、北白石小学校）

14：55-15：10 オリンピック・パラリンピック教育について

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

副センター長 深見 英一郎 氏

研究員 岡田 悠佑 氏

（15：10-17：00 「あすチャレ！スクール」教員研修）

開会行事では、札幌市教育委員会学校教育部教育課程担当課指導主事の末原久史氏より挨拶がありました。



末原 久史 氏



会場の様子

次に、推進校の先生方より、これまでに取り組まれた実践の紹介がありました。

札幌市では、昨年度から大倉山ジャンプ競技場内にある「札幌オリンピックミュージアム」を活用したオリ・パラ教育の実践を推奨しています。具体的には、「札幌オリンピックミュージアム」に行き、館内の体験型ブース（スキージャンプやボブスレーなど）の体験や学芸員の方と展示物の観覧、さらには館内

のホールでのオリンピック・パラリンピアンの方の講演の聴講などの取り組みです。セミナーでは、これらの取り組みを実施した先生方から、実際に「札幌オリンピックミュージアム」を活用したオリ・パラ教育を通して子ども達の様子がどのように変化したのか、実施するうえで困難だった点などについて、写真を踏まえながら発表いただきました。



実践発表の様子①



実践発表の様子②



札幌オリンピックミュージアム



スキージャンプの体験型ブース



オリンピックの講演

続いて、本センターの深見副センター長及び岡田研究員より、全国の動向も踏まえたオリ・パラ教育についての説明がありました。

深見副センター長からは、上述の実践発表も含めて札幌市の取り組みが日本におけるオリ・パラ教育の一つのモデルとなっているなどの講評がありました。

次に、本センターの岡田研究員より、本事業の紹介に加えて、他地域の実践事例を元にした学校におけるオリ・パラ教育の指導方法についての紹介がありました。実践紹介では、札幌市の今年度の推進校のオリ・パラ教育実施計画に即して、特に、事前・事後学習に関する指導を中心に、調べ学習や各教科を活用した実践などの紹介がありました。さらに、札幌市が作成したオリ・パラ教育用教材やWOWOWの作成した「WHO I AM」などの紹介もありました。



深見 英一郎 副センター長



岡田 悠佑 研究員

【 岩手県 セミナー 】

日時：2018（平成30）年9月6日（木）14：00-16：20

会場：アイーナ 会議室 701

主催：岩手県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：15名（小学校3名、中学校3名、高等学校3名、特別支援学校1名、その他関係者5名）

プログラム：

14：00-14：10 開会の挨拶

岩手県教育委員会事務局保健体育課 総括課長 荒木田 光孝 氏

14：10-14：40 事業概要説明

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
主幹研究員 吉永 武史 氏

15：40-15：50 休憩

15：50-16：10 質疑応答及びグループワーク

16：10-16：20 連絡

開会にあたり、岩手県教育委員会事務局保健体育課の荒木田総括課長より、「昨年度、岩手県で開催された国体では多くの感動が生まれ、素晴らしい成功を収めることができました。それに続き、来年度開催予定のラグビーワールドカップや2020年の東京大会などに向け、より一層、子どもたちに規範意識や国際理解の教育を推進していきたいと思っております。また、昨今では、スポーツの負の側面がメディアで連日取り上げられていますが、子どもたちにはスポーツが本来持っている素晴らしい価値に触れてもらい、大きな希望を持てるような取組みにしていきたいと思っております。」という旨の挨拶がありました。

次に、本センターの吉永主幹研究員より、本事業に関する概要の説明や、他県におけるオリ・パラ教育の事例紹介並びに進め方について説明がありました。概要の説明では、事業発足の経緯や、オリンピックとパラリンピックの価値についての説明がありました。また、過去のオリ・パラ教育の実践で実施した子どもたちへのアンケートでは、「夢や目標を持つことの大切さに気付いた」や、「障がいの有無は関係ない」などの感想が多くみられたことや、子どもたちがオリ・パラ教育を通して、多様性を認めることや共生社会について考えることができるようになったという成果にもとづき、オリ・パラ教育を実践していくことの意義や重要性が述べられました。さらに、オリ・パラ教育の進め方については、小学校における「総合的な学習の時間」や、中学校・高等学校における保健体育科の「体育理論」などでの指導案が紹介されました。それらを事前・事後学習を実施する上での参考としながら、より充実したオリ・パラ教育を実施していただきたいとの説明がありました。

休憩後には、3つのグループに分かれてグループワークを行いました。昨年度推進校だった学校を中心に、オリ・パラ教育の進め方や課題などについての意見交換が行われました。各学校では、事前にオリ・パラ教育の実施計画が作成されており、それらを共有しながら、「競技力の向上という側面だけでなく、努力することの大切さを学ばせたい」や、「キャリア教育にも結びつくように、系統立てて取り組んでいきたい」などと、より具体的な意見が出されました。



荒木田 光孝 氏



橋本 ゆかり 氏



吉永 武史 主幹研究員



DVD 上映



ワークショップ①



ワークショップ②



ワークショップ③



記念撮影

【 埼玉県 セミナー 】

<第 1 回>

日時：2018（平成 30）年 6 月 29 日（金）15：00-16：30

会場：埼玉県県民健康センター 3 階 中会議室

主催：埼玉県教育局、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：9 名

プログラム：

15：00-15：05 開会の挨拶

埼玉県教育局教育総務部教育政策課 課長 八田 聡史 氏

15：05-15：10 指導者・事務局紹介

15：10-15：25

説明（1）平成 30 年度「県立学校オリンピック・パラリンピック教育推進事業」について

説明（2）平成 30 年度「県立学校オリンピック・パラリンピック教育推進事業」

県内セミナーについて

埼玉県教育局教育総務部教育政策課 主査 石田 賢一 氏

15：25-15：55 情報交換（1）講義「学校におけるオリンピック・パラリンピック教育について」

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

研究員 岡田 悠佑 氏

15：55-16：25 情報交換（2）各教育推進校「実施計画書」について

埼玉県教育局教育総務部教育政策課 主査 石田 賢一 氏

16：25-16：28 情報交換（3）その他

16：28-16：30 諸連絡

16：25-16：30 閉会の挨拶

埼玉県教育局教育総務部教育政策課 主査 石田 賢一 氏

埼玉県では、本事業概要に関する情報の伝達と、各校の事業計画を作成するための情報交換を目的とした「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」埼玉県推進校連絡会議兼第 1 回地域セミナーを開催しました。

最初に、埼玉県教育局教育総務部教育政策課課長の八田聡史氏より、開会の挨拶がありました。埼玉県は、2020年の東京大会において、サッカー、バスケットボール、ゴルフ、射撃の4種目の競技会場があることから、県内で、オリ・パラ教育を積極的に行っていききたい、というお話でした。

次に、埼玉県教育局教育総務部教育政策課主査の石田賢一氏より、事業概要に関して、特に県内セミナー、オリンピック・パラリンピック教育の実践、地域ワークショップ、全国セミナーについての説明がありました。埼玉県では、年度末に本年度の各推進校のオリ・パラ教育の取り組みを全県の各種学校に紹介し、オリ・パラ教育への先生方の興味や関心を高めていきたい、と述べられました。



八田 聡史 氏



石田 賢一 氏

続いて、本センター研究員の岡田研究員から、これまでの本事業における実践例の中から、各推進校の事業計画（仮）の先行事例についての発表が行われました。具体的には、オリンピック・パラリンピックの講演、パラリンピックスポーツの体験、調べ学習、他校種との交流、授業を活用した実践の5つのテーマについて、写真を提示しながら、取り組みの詳細について説明がありました。

最後に、推進校の先生方に校種ごとに分かれていただき、グループワークを行いました。各先生方から事業計画について情報共有をしていただくとともに、現在、各推進校で課題となっていることや今後の事業の進め方などについて、質疑応答が行われました。



グループワーク①



グループワーク②

<第2回>

日時：2018（平成30）年8月3日（金）14：30-16：30

会場：With You さいたま 4階 セミナー室2

主催：埼玉県教育局、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：8名

プログラム：

14：30-14：35 開会の挨拶

埼玉県教育局教育総務部 教育政策課 課長 八田 聡史 氏

14：35-14：40 指導者・事務局紹介

14：40-15：00 説明（1）「オリンピック・パラリンピック教育について」

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター 副センター長
深見 英一郎 氏

15：00-15：15 説明（2）埼玉県におけるオリンピック・パラリンピック教育について

埼玉県教育局教育総務部 教育政策課 主査 石田 賢一 氏

15：15-15：35 説明（3）学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の指導方法について

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
研究員 岡田 悠佑 氏

15：35-15：40 休憩

15：40-16：15 協議 各推進校におけるオリンピック・パラリンピック教育推進について

参加頂いた推進校の先生方

16：15-16：28 指導・講評

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
副センター長 深見 英一郎 氏

16：28～16：30 諸連絡

埼玉県では、第1回地域セミナーで各推進校の実施計画の作成のための講義を踏まえ、全国のオリンピック・パラリンピック教育の実践や教材紹介及び実際に各推進校で作成した事業計画の検討を行う第2回地域セミナーを開催しました。

最初に、埼玉県教育局教育総務部教育政策課課長の八田聡史氏より、開会の挨拶がありました。

次に、本センターの深見副センター長より、「オリンピック・パラリンピック教育について」というテーマで、本事業及び関連事業と本事業の実態についての説明がありました。



八田 聡史 氏

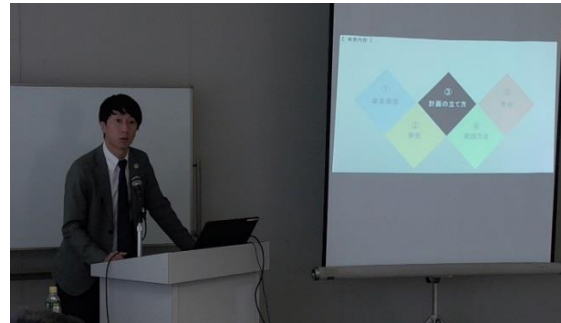


深見 英一郎 副センター長

続いて、埼玉県教育局教育総務部教育政策課主査の石田賢一氏より、既に埼玉県内の学校で取り組まれているオリ・パラ教育と関連する事業の紹介や組織委員会の「よい、ドン！スクール」の認証校の登録数や実際の取り組み内容などについて紹介がありました。さらに、本事業の年間計画についても説明がありました。さらに、本センターの岡田研究員から、これまでの本事業における実践例と教材の紹介がありました。特に、教材に関しては、本センターが昨年度作成したデジタル教材に加えて、国際パラリンピック委員会と WOWOW が共同開発した「WHO I AM」が紹介されました。



石田 賢一 氏



岡田 悠佑 研究員

最後に、各推進校の先生方による事業計画の発表と、それに対する本センターの深見副センター長による指導及び講評が行われました。全ての推進校において、各校の教育目標や実態に即した計画が立てられていました。深見副センター長からも、今後各推進校で取り組まれる実践が楽しみである、という講評がありました。



協議の様子



講評の様子

【 横浜市 セミナー 】

日時：2018（平成30）年5月18日（金）15：00-16：45

会場：横浜市教育委員会南部学校教育事務所

主催：横浜市教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：21名

プログラム：

15：00-15：10 開会の挨拶

横浜市教育委員会事務局指導部 指導企画課 主席指導主事 木村 典明 氏

15：10-15：35 オリンピック・パラリンピック教育推進事業の概要及び事務手続きについて

横浜市教育委員会事務局指導部 指導企画課 主任指導主事 高橋 義成 氏

横浜市教育委員会事務局指導部 指導企画課 漆畑 優紀 氏

15：35-16：10 オリンピック・パラリンピック教育の取り組み（事例紹介等）

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

研究員 岡田 悠佑 氏

16：10-16：30 グループディスカッション

「各学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進計画について」

16：30-16：45 質疑応答

開会行事では、横浜市教育委員会事務局指導部指導企画課の木村典明氏より挨拶がありました。

次に、横浜市教育委員会事務局の高橋義成氏より、本事業概要の説明がありました。横浜市では、既に、「ようい、どん！スクール」（組織委員会）への参加や学校や様々な研究会へのオリンピック・パラリンピアン等の派遣などの事業を行っていましたが、本事業に参加することで、更なる2020年の東京大会への機運の醸成や大会を契機としてスポーツの価値への理解を深めることでこれからの社会を担う人材の育成を目指していきたい、ということでした。また、先進的にオリ・パラ教育を推進している東京都の事例も紹介されながら、具体的に本事業の進め方について説明がありました。さらに、横浜市では、本事業への関心を本年度の推進校以外の学校にも広げていくために、今年度末に横浜市の全校を集めた報告会の実施を計画している、ということでした。

最後に、事務担当の漆畑優紀氏から、経費使用上の注意等の説明がありました。



高橋 義成 氏



会場の様子

続いて、本センターの岡田研究員から、「オリンピック・パラリンピック教育の取り組みについて」というテーマで、本事業の概要や他関係団体のオリ・パラ教育関連の取り組みの紹介、さらには、本事業におけるオリ・パラ教育の進め方などについて実践例も交えて説明がありました。オリ・パラ教育には、2つの学び（オリ・パラに「ついでに学ぶ」、オリ・パラを「通した学び」）があり、それらを各校で実現するためには、各校の目標や内容とオリ・パラ教育の目標や内容とを組み合わせ、各校オリジナルのオリ・パラ教育の計画を立てる必要がある、とのことでした。また、実際に実践をする際には、オリンピック・パラリンピアンへの講演や実技指導をメインにしたときに、その前後にどのような指導を行うかによって子ども達への影響は大きく変わってくる、ということでした。そして、事前、事後の指導として特異な実践を行った事例を中心に、昨年度の、本センターの担当した6地域（札幌市、岩手県、静岡県、岐阜県、広島県、熊本県）で取り組まれた実践を紹介されました。

また、実際に授業等で活用できる「オリンピック・パラリンピックノート」（本センター）、「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料」（スポーツ庁）、「I'mPOSSIBLE」（日本パラリンピック委員会、日本財団パラリンピックサポートセンター）、さらに本センターで昨年度作成したデジタル教材「夢に向かって 車いすアスリートの挑戦」（本センター）というパラリンピアンへの副島正純氏を事例としたパラリンピック教育のための教材の紹介が行われました。最後に、推進校の先生方にテーマや校種に応じて分かれてもらい、現段階で計画している本年度の各校のオリ・パラ教育の取り組みについて情報共有をしていただきました。質疑応答では、経費の具体的な使用方法や2020年の東京大会のエンブレムの使用方法などについて質問がありました。



グループディスカッション

【 岐阜県 セミナー 】

日時：2018（平成30）年6月16日（金）14：00-16：25

会場：OKB ふれあい会館 第2棟7階 職員研修所7B研修室

主催：岐阜県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：8名

プログラム：

14：00-14：05 開会の挨拶

岐阜県教育委員会 体育健康課 教育主管 中川 浩美 氏

14：05-14：25 オリンピック・パラリンピック教育について

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
副センター長 深見 英一郎 氏

14：25-14：50 岐阜県におけるオリンピック・パラリンピック教育について

岐阜県教育委員会 体育健康課 中島 昌敏 氏

14：50-15：00 休憩

15：00-15：30 学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の指導方法について

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
研究員 岡田 悠佑 氏

15：30-16：20 グループワーク・質疑応答

開会行事では、岐阜県教育委員会体育健康課教育主管の中川浩美氏より挨拶がありました。

次に、本センターの深見副センター長より、本事業概要の説明がありました。



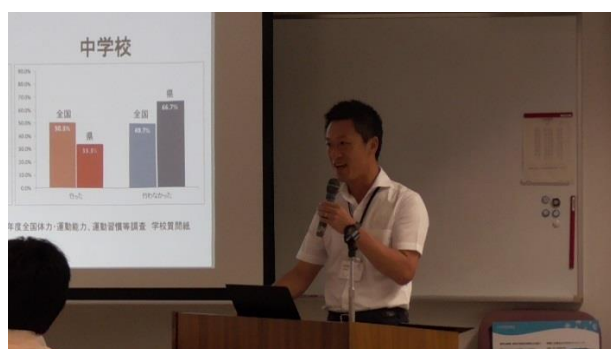
中川 浩美 氏



深見 英一郎 副センター長

続いて、岐阜県教育委員会体育健康課の中島昌敏氏より、岐阜県のオリ・パラ教育についての説明がありました。中島氏からは、まず、オリ・パラに対する児童・生徒の関心に関する全国と岐阜県のデータを比較しながら、岐阜県では益々オリ・パラ教育を推進し、オリ・パラ、さらにはスポーツに対する興味関心を高めていく必要がある、という説明がありました。さらに、昨年度は県内の高等学校及び特別支援学校を中心にオリ・パラ教育を展開した岐阜県では、今年度は小学校、中学校、そして特別支援学校を中心にオリ・パラ教育を推進していく計画を立てた、ということでした。その際、昨年度の推進校はバックアップ校として位置づけ、昨年度の実践のノウハウをもとに、実践をサポートしてもらうような体制を構築していきたいということでした。このような体制づくりは、各推進校の負担を軽減するとともに、教育委員会を中心として校種の垣根を越えた循環を生み出すことでより広範にオリ・パラ教育の影響を波及していくことを狙いとしている、ということでした。さらに、各推進校に派遣するオリンピック・パラリンピアンも、可能な範囲で岐阜県にゆかりのある方をお迎えし、岐阜県独自のオリ・パラ教育の実現につなげていきたいというお話でした。

次に、本センター研究員の岡田悠佑より、学校におけるオリ・パラ教育の指導方法について、というテーマで他地域の実践や教材の紹介がありました。特に、体育科・保健体育科や総合的な学習の時間などの時間を活用したオリ・パラ教育に加えて、様々な教科の授業を活用した実践を紹介され、より多様なオリ・パラ教育の実現を目指してほしい、とのことでした。



中島 昌敏 氏



岡田 悠佑 研究員

最後に、小学校と中学校・高等学校・特別支援学校の2グループに分かれて、グループワークを行いました。それぞれのグループには、岐阜県教育委員会の方、県内2カ所の教育事務所の方、そして本センターの者がそれぞれ加わり、各校の事業計画に合わせた質問や相談を受けていました。



グループワーク①



グループワーク②

【 静岡県 セミナー 】

<第1回>

静岡県では、第1回地域セミナー（東部地区、西部地区）として、県内の「小中学校体育主任研修会」のプログラムの一部で、本事業に関する説明が行われました。

―東部地区―

日時：2018（平成30）年4月24日（火）

14：00-16：25

会場：三島市民分科会館（小ホール）

主催：静岡県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：約300名

―西部地区―

日時：2018（平成30）年4月25日（水）

14：00-16：25

会場：静岡県総合教育センター（講堂）

主催：静岡県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：約220名

プログラム：

14：00-14：05 開会挨拶

14：05-14：45 「平成30年度の本県児童生徒の体力向上に関する事業及び重点施策等について」

15：00-16：00 「東京2020オリンピック・パラリンピック教育について」

東部地区

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
主幹研究員 吉永 武史 氏

西部地区

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
副センター長 深見 英一郎 氏

16：10-16：20 「がん教育について」

東部地区では吉永主幹研究員が、西部地区では本センターの深見副センター長が登壇し、本事業の概要、オリ・パラ教育の価値や実践方法について講義を行いました。



会場全体（東部地区）



吉永 武史 主幹研究員

<第2回>

日時：2018（平成30）年5月29日（火）14：00-16：30

会場：静岡県産業経済会館 大会議室

主催：静岡県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：45名

プログラム：

14：00-14：05 開会の挨拶 静岡県教育委員会健康体育課 課長 名雪 元 氏

14：10-14：50 オリンピック・パラリンピック教育の取り組み
早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
研究員 岡田 悠佑 氏

14：50-15：20 静岡県における平成29年度の取組及び事業説明について
静岡県教育委員会健康体育課 教育主査 鈴木 淳矢 氏

15：20-15：30 昨年度の取り組みの実践例について
静岡県立伊東高等学校 校長 成田 優 氏

15：30-15：35 休憩

15：35-15：55 事務手続きの説明

15：55-16：10 質疑応答

16：10-16：30 グループに分かれて意見交換



名雪 元 氏



成田 優 氏

開会行事では、静岡県教育委員会健康体育課課長の名雪元氏より主催者挨拶がありました。本事業に参画して 2 年目となる今年度は、静岡県や各市の特色を生かした実践を推し進めて、何よりも児童や生徒達にとって財産となるような経験を提供していきたい、と抱負を述べられました。

続いて、本センターの岡田研究員より、「オリンピック・パラリンピック教育の取り組み」というテーマで発表がありました。発表では、本事業の概要の説明に加えて、各種学校でオリ・パラ教育を実施するための方法について、実践事例を踏まえながら説明がありました。実践事例に関しては、昨年度の取り組みの中で、各地域の特性を活かした実践、学校全体で取り組んだ実践、近隣の学校と連携して取り組んだ実践などについて紹介がありました。また、実際に授業等で活用できる「オリンピック・パラリンピックノート」(WASEDA ROPE)、「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料」(スポーツ庁)、「I'm POSSIBLE」(日本パラリンピック委員会、日本財団パラリンピックサポートセンター)、「夢に向かって 車いすアスリートの挑戦」(デジタル教材：本センター)について、資料の活用の仕方などの紹介がありました。

次に、静岡県教育委員会健康体育課教育主査の鈴木淳矢氏より、「静岡県における平成 29 年度の取組及び事業説明について」というテーマで発表がありました。発表では、昨年度の静岡県での実践例も踏まえながら、実際にオリ・パラ教育を各校で進めていく手続きについて詳細な説明がありました。また、昨年度の実践校を代表して静岡県立伊東高等学校校長の成田優氏より、講師を探す手順やオリンピック・パラリンピアンと生徒が接した際の様子などについて紹介がありました。さらに成田氏からは、先生方が本事業を楽しんで行うことが生徒達へのよい影響につながっていくことや、キャリア教育などの各学校における既存の目標や課題と組み合わせて実践を行うことでより効果が高まっていくこと、などのアドバイスもいただきました。

休憩後の質疑応答では、予算の使用用途や報告書の提出方法などについて、参加された先生方から質問が出ました。



意見交換①



意見交換②

最後に、参加された先生方に 6 名程度のグループに分かれていただき、各校における現在の事業計画や実施上の課題などについての協議が行われました。その際、各グループには、昨年度の推進校の先生が配置され、協議の中で出た質問に対応していただいたり、昨年度の実践を元にアドバイスをされたりしていました。所定の時間となり、盛況の中、散会となりました。

【 静岡市 セミナー 】

日時：2018（平成30）年12月12日（水）15：00-16：30

会場：静岡市教育センター

主催：静岡市教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：9名

プログラム：

15：00-15：05 開会の挨拶及び講師紹介

静岡市教育センター 指導主事 黒柳 哲也 氏

15：05-15：35 「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」事業説明

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

副センター長 深見 英一郎 氏

研究員 岡田 悠佑 氏

15：35-16：20 ボッチャ体験

静岡市スポーツ交流課 担当者

16：20-16：30 事務連絡

開会行事では、静岡市教育センターの黒柳哲也氏（指導主事）より挨拶と講師紹介がありました。

次に、本センターの深見副センター長と岡田研究員による事業概要の説明とオリ・パラ教育の推進方法に関する講義が行われました。当初10地域から始められた本事業は、今年度で3年目を迎え、推進地域は35地域まで増え、少しずつオリ・パラ教育が全国に広まってきている一方で、学校現場では、まだまだオリ・パラ教育の実践を行ううえでの課題は山積しているという現状を報告されました。そして今後は、推進校の先生方と少しずつそれらの課題を解消しながら、オリ・パラ教育を充実させていく必要がある、という説明がありました。さらに、本センターの岡田研究員からは、各種学校における具体的なオリ・パラ教育の実践方法についての講義がありました。オリンピック・パラリンピアンへの講演や実技指導の前後の取り組みとして、オリ・パラを関連付けた授業や掲示物の作成などの取り組みについて、事例を交えながら紹介がされました。また、「オリンピック・パラリンピック教育指導参考資料」（スポーツ庁）や「I'mPOSSIBLE」（日本パラリンピック委員会、日本財団パラリンピックサポートセンター）などの教材、さらには「夢に向かって 車いすアスリートの挑戦」（早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター）や「WHO AM I」（WOWOW）などの授業で活用できる映像資料の紹介も行われました。



黒柳 哲也 氏



深見 英一郎 副センター長



岡田 悠佑 研究員

休憩後、参加された先生方を対象に、ボッチャの体験会が行われました。まず、映像資料を元にボッチャのルールやゲームの進め方について講義を行いました。続いて、スポーツ交流課の方の進行で、実際にボッチャ体験を行いました。参加されたほとんどの先生がボッチャを行うのが初めてであったことから、ジャックボール（白いボール）を投げてゲームを始めることや、1投目のボールがジャックボールから遠いチームからゲームを始めることなどの説明がありました。先生方には、2チームに分かれてもらい、公式試合と同様の6エンドを行って勝敗を競っていただきました。短時間でしたが投げ方を工夫してジャックボールの近くにボールを止められるようになる先生もあり、実際に学校で子どもたちとやってみたい、という意見もいただきました。



ボッチャの紹介



ボッチャ体験

【 滋賀県 セミナー 】

日時：2018（平成30）年7月13日（金）14：00-16：30

会場：滋賀県大津合同庁舎 6-D

主催：滋賀県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：10名

プログラム：

13：50-13：55 開会の挨拶

滋賀県教育委員会事務局 保健体育課 参事 樋口 康之 氏

13：55-14：20 オリンピック・パラリンピックについて

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
副センター長 深見 英一郎 氏

14：20-14：50 事業説明

滋賀県教育委員会事務局保健体育課 主査 奥村 源 氏

14：50-15：00 休憩

15：00-15：40 学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の指導法について

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
研究員 岡田 悠佑 氏

15：40-16：25 情報交換

16：25-16：30 諸連絡および閉会の挨拶

滋賀県教育委員会事務局保健体育課 主査 奥村 源 氏

最初に、滋賀県教育委員会事務局保健体育課参事の樋口康之氏より、開会の挨拶がありました。滋賀県は、本事業を通して、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に留まらず、2024年に開催予定の国体までも視野にいれ、運動・スポーツへの興味や関心を高めていきたい、とのことでした。

次に、本センターの深見副センター長より、事業概要に関して、特に、本事業のこれまでの取り組みや実態に関しての説明がありました。

続いて、滋賀県教育委員会事務局保健体育課主査の奥村源氏より、本事業に関する滋賀県の取り組みの方向性について説明がありました。具体的には、滋賀県の本事業の三つの柱である、小学校、中学校、高等学校へのアスリート招聘事業、特別支援学校における運動機会の充実促進事業、そして小学校における体育の時間や休み時間を活用したチャレンジランキングについて、それぞれ詳細な説明がありました。

さらに本センター研究員の岡田悠佑から、これまでの本事業における実践例及びオリ・パラ教育関連の教材について、写真を提示しながら、詳細な説明がありました。



樋口 康之 氏



深見 英一郎 副センター長



奥村 源 氏



岡田 悠佑 研究員

最後に、推進校の先生方を校種ごとに分けて、グループワークが行われました。各グループでは、事業計画について情報共有をしていただくとともに、既存の教育課程の中にオリ・パラ教育を組み込んでいく方法や、少人数や道具の不足した状況で取り組めるオリ・パラ教育の方法などについて質疑応答が行われました。また、各校においてオリ・パラ教育を実施する際の相談窓口として、学校間や学校内の教員間の連携、さらには教育委員会及び本センターと各推進校の連携の必要性についても意見が出ました。



グループワーク①



グループワーク②

【 広島県 セミナー 】

日時：2018（平成30）年7月27日（金）13：30-16：30

会場：広島県立総合体育館 中会議室 B

主催：広島県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：33名

プログラム：

13：30-13：35 開会の挨拶

広島県教育委員会事務局 教育部豊かな心育成課 学校体育係長 光橋 健 氏

13：35-14：00 事業説明

広島県教育委員会事務局 教育部豊かな心育成課 指導主事 古井 友樹 氏

14：00-14：25 オリンピック・パラリンピック教育の現状について

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
副センター長 深見 英一郎 氏

14：25-14：50 全国の学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の取組内容について

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
研究員 岡田 悠佑 氏

14：50-15：05 休憩

15：05-15：20 デジタル教材の鑑賞

15：20-16：15 学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の取組の充実に向けたグループ協議
推進校の先生方

16：15-16：25 質疑応答

16：25-16：30 閉会行事

開会行事では、広島県教育委員会事務局教育部豊かな心育成課学校体育係長の光橋健氏より挨拶がありました。

次に、広島県教育委員会事務局教育部豊かな心育成課指導主事の古井友樹氏より、本事業概要の説明がありました。古井氏は、昨年度までの取り組みを踏まえながら、今年度の広島県の本事業の取り組みの目標として「+αの取り組みの充実」を挙げられました。具体的には、オリンピック・パラリンピアンによる講演や実技指導の前後の学習を充実させ、より持続的な取り組みを実現することを目指している、と

いうことでした。

続いて、本センターの深見副センター長より、本事業の概要及びオリ・パラ教育の現状についての講義がありました。当初 10 地域から始められた本事業だが、3 年目の今年度は 35 地域まで増え、少しずつオリ・パラ教育が広まってきている一方で、学校現場では、まだまだオリ・パラ教育の実践を行ううえでの課題は山積しているという現状を報告されました。そして今後は、推進校の先生方と少しずつそれらの課題を解消しながら、オリ・パラ教育を充実させていく必要がある、という説明がありました。



古井 友樹 氏



深見 英一郎 副センター長

さらに、本センターの岡田研究員より、各種学校における具体的なオリ・パラ教育の実践方法についての講義がありました。オリンピック・パラリンピアンへの講演や実技指導の前後の取り組みとして、オリ・パラを関連付けた授業や掲示物の作成などの取り組みについて、事例を交えながら紹介がありました。

休憩後、デジタル教材の鑑賞を行いました。昨年度、本センターで作成した「夢に向かって 車いすアスリートの挑戦」を上映しました。さらに、各校の実状に合わせたオリ・パラ教育の計画をたてるためのグループワークを行いました。具体的には、今年度の各校における行事及び授業計画とオリ・パラ教育をどのように組み合わせるか、という点について各校種ごとに分かれて検討を行いました。各校の実状に合わせて、オリ・パラ教育を行うための様々なアイデアが出されていました。質疑応答では、推進校の先生から 2020 年以降も継続的にオリ・パラ教育を行っていくための方法の検討が必要である、という意見が出ました。



グループワーク①



グループワーク②

【 香川県 セミナー 】

日時：2018（平成30）年6月12日（火）14：00-16：30

会場：香川県教育センター 4階 第7研修室

主催：香川県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：15名

プログラム：

＜推進校担当者会＞

14：00-14：30 平成30年度香川県オリンピック・パラリンピック教育推進事業について

香川県教育委員会事務局保健体育課 指導主事 山西 達也 氏

14：30-14：45 オリンピック・パラリンピック教育について（推進校の事業計画書を中心に）

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

研究員 岡田 悠佑 氏

14：45-14：55 質疑応答及びグループで情報共有

＜地域セミナー＞

15：00-15：10 開会の挨拶

香川県教育委員会事務局保健体育課 課長 渡辺 浩三 氏

15：10-16：00 オリンピック・パラリンピック教育の取り組み

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

研究員 岡田 悠佑 氏

16：00-16：10 質疑応答及びグループで情報共有

16：10-16：25 デジタル教材（副島氏のDVD教材）の鑑賞

16：25-16：30 閉会の挨拶

香川県教育委員会事務局保健体育課 指導主事 山西 達也 氏

＜推進校担当者会＞

地域セミナーに先立って、推進校の先生方のみを対象とした推進校担当者会が行われました。

まず、香川県教育委員会事務局保健体育課指導主事の山西達也氏より、予算や報告書などの事務的な連絡に加えて、香川県でのオリ・パラ教育を推進していく方向性に関しての説明がありました。香川県のオ

リ・パラ教育の計画は、以下の通りです。香川県では、体育科、保健体育科の授業を通して、体力の向上、多様性の尊重、そして公德心の育成という三つの目標を達成することを目指しており、これらの目標とオリ・パラ教育を関連付けて取り組んでいくことを目指しています。具体的な取り組みとしては、運動習慣の確立に向けた学習カード等とオリ・パラ教育を関連づける、道徳や学級活動とオリ・パラ教育の関連を図る、そしてボランティア集会や人権集会などの学校行事とオリ・パラ教育の関連を図る、などの例が挙げられました。そして、これらの目標を達成するために、発達段階に応じた年間を通じたオリ・パラ教育の実現を目指している、ということでした。

さらに、本センターの岡田研究員より、各校の事業計画に基づいたオリ・パラ教育の実践例等の紹介がありました。国旗づくり、調べ学習、交流行事、文化の学習、講演の5つを中心にこれまでの事例や取り組み方の工夫などについて説明がありました。その後、いくつかのグループに分かれて、各校の事業計画や今後事業を実施するうえでの課題などについて話し合いが行われました。



山西 達也 氏



グループワーク

<地域セミナー>

5分の休憩の後、推進校以外の先生方にも参加いただき、地域セミナーを実施しました。

開会行事では、香川県教育委員会事務局保健体育課課長 渡辺浩三氏より挨拶がありました。

次に、本センターの岡田研究員より、本事業概要、オリ・パラ教育の実状、さらには、実際に学校でオリ・パラ教育を行う際のポイントや教材などについて、実践例を交えながら紹介いただきました。そして、これらの話を踏まえて、推進校の先生方を中心にグループに分かれて情報共有が行われました。そして最後に、本センターで昨年度作成したデジタル教材（副島氏を取り上げたDVD教材）の鑑賞を行いました。



渡辺 浩三 氏



会場の様子

【 熊本県 セミナー 】

日時：2018（平成30）年8月7日（火）14：00-16：40

会場：くまもと県民交流会館パレア

主催：熊本県教育委員会、特定非営利活動法人ひとづくりくまもとネット、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：熊本県オリンピック・パラリンピック教育推進校関係者 23 名（小学校 10 名、中学校 8 名、高等学校 3 名、特別支援学校 2 名）、その他関係者 13 名（熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、特定非営利活動法人ひとづくりくまもとネット等）

プログラム：

14：00-14：10 開会挨拶

熊本県教育庁教育指導局 体育保健課 課長 西村 浩二 氏

14：10-14：45 事業概要説明

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
主幹研究員 吉永 武史 氏

14：45-15：00 休憩

15：00-16：30 講演 「行動することで自分を変え、世界を変える！」

講師：初瀬 勇輔 氏（北京パラリンピック 視覚障害者柔道 90kg 級出場）

16：30-16：40 諸連絡

16：40 閉会挨拶

開会にあたり、熊本県教育庁教育指導局体育保健課長の西村浩二氏より、「2020 年の東京大会の成功に向けて、各学校のオリ・パラ教育を充実させ、大会後も生涯スポーツとして子どもたちに残っていくような取り組みを展開していきたい」という旨のご挨拶がありました。

次に、本センターの吉永主幹研究員より、事業概要の説明や、他地域におけるオリ・パラ教育の事例紹介がありました。事例紹介では、新学習指導要領に対応したカリキュラムマネジメントの工夫が述べられました。また、具体的事例として、オリ・パラ新聞の作成を通じた「する・みる・支える・知る」といった多様な関わり方と関連づけた実践や、地域の施設を活用した体験活動によってオリンピックを契機とした街づくりについて学習を進めた実践並びに海外のパラリンピアンとの交流を通じた学習を取り入れた実践等、様々な例が紹介されました。

その後、パラリンピアンの中瀬勇輔氏による「行動することで自分を変え、世界を変える！」という演題の講演がありました。中瀬氏は、高校卒業後に緑内障を発症し、大学在学中には、左右両方の視野の大半が失われてしまったとのことでした。手術をしても視力が戻ることはなく、今まで通りの生活を送るこ

とができない苦しみや、周囲から取り残されていくような計り知れない不安・悲しみに苛まれ、絶望の淵に立たされていたといえます。そのような中、入院生活を始終支えてくれた友人の優しさに心を動かされ、支えてくれる人たちのために一歩踏み出す勇気を出していったそうです。その結果、少しずつ前を向くことができるようになり、視覚障がいがあっても授業や試験等を受けられるよう、在籍する大学に何度も掛け合い、障害を抱えながらも無事に大学を卒業されました。また、高校生のときに柔道部に所属していた経験を活かし、視覚障害者柔道への挑戦も決意されました。すると、高校時代の下積みの成果もあり、出場した大会ですぐに優勝を果たし、後に北京パラリンピックに出場もされました。前日までは、ただの障害者という思いだったのが、優勝経験によって大きな自信を手にすることができ、どのような状況でも行動することで何かを変えていけるということを学んだと述べられました。ご自身の経験から、視力を失って初めて多くの障害が街に存在していることに気付いたため、2020年の東京大会は、様々な障害を抱える人に対応できるよう、日本を変えるチャンスにしたい、多様性を受け入れることが当たり前となる社会を実現したいというメッセージを頂きました。

閉会の挨拶では、熊本市教育委員会健康教育課教育審議員の香山悟氏から、熊本地震後には、多くのアスリートが県内を訪問し講演をしてくれたことで、たくさんの勇気をもたらったとのが話されました。そして、今後もスポーツの持つ力を多くの子どもたちへ伝えていきたいという言葉頂きました。



西村 浩二 氏



香山 悟 氏



初瀬 勇輔 氏



会場の様子



初瀬氏が持参された金メダルと、メダルをご覧になる先生方



記念撮影

＜オリンピック・パラリンピック教育推進校 実施報告＞

1. 札幌市

(1) 2018 年度 札幌市オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

小学校 (57 校)	札幌市立盤溪小学校	札幌市立平岸小学校
	札幌市立手稲西小学校	札幌市立小野幌小学校
	札幌市立前田小学校	札幌市立篠路小学校
	札幌市立北白石小学校	札幌市立北小学校
	札幌市立福住小学校	札幌市立東園小学校
	札幌市立米里小学校	札幌市立常盤小学校
	札幌市立幌東小学校	札幌市立西小学校
	札幌市立三里塚小学校	札幌市立北都小学校
	札幌市立厚別西小学校	札幌市立山鼻南小学校
	札幌市立豊園小学校	札幌市立前田北小学校
	札幌市立拓北小学校	札幌市立幌西小学校
	札幌市立西岡南小学校	札幌市立旭小学校
	札幌市立平岸高台小学校	札幌市立北光小学校
	札幌市立清田緑小学校	札幌市立八軒西小学校
	札幌市立美しが丘小学校	札幌市立宮の森小学校
	札幌市立信濃小学校	札幌市立藤の沢小学校
	札幌市立大倉山小学校	札幌市立しらかば台小学校
	札幌市立南の沢小学校	札幌市立厚別通小学校
	札幌市立中の島小学校	札幌市立上野幌小学校
	札幌市立星置東小学校	札幌市立藤野小学校
	札幌市立手稲宮丘小学校	札幌市立平岡小学校
	札幌市立栄小学校	札幌市立明園小学校
	札幌市立発寒東小学校	札幌市立二条小学校
	札幌市立南月寒小学校	札幌市立澄川小学校
	札幌市立新陽小学校	札幌市立伏見小学校
	札幌市立真駒内公園小学校	札幌市立清田南小学校
	札幌市立北園小学校	札幌市立簾舞小学校
	札幌市立三角山小学校	○札幌市立南白石小学校
	札幌市立藻岩小学校	
中学校 (7 校)	札幌市立中央中学校	○札幌市立中の島中学校
	札幌市立青葉中学校	札幌市立真駒内曙中学校
	札幌市立新琴似北中学校	札幌市立藤野中学校
	札幌市立東月寒中学校	
中等教育学校 (1 校)	札幌市立開成中等教育学校	
特別支援学校 (2 校)	札幌市立みなみの杜高等支援学校	札幌市立山の手養護学校

※○が付いている学校は本センターの研究員が参観した学校
(計 67 校)

(2) 道徳の授業を活用した実践

○学校名：札幌市立南白石小学校

○実施日時：2018（平成 30）年 11 月 8 日（木）13：30-14：15、14：30-15：30

○対象：児童 21 名（3 年生 1 クラス）

○実践内容

2018（平成 30）年 11 月 8 日（木）に、札幌市立南白石小学校にて、リレハンメル大会で金メダルを獲得した阿部雅司さん（スキーノルディック複合／リレハンメル大会優勝）のエピソードを教材とした道徳の授業が行われました。今回授業を行ったクラスは、事前に「札幌オリンピックミュージアム」を参観し、阿部さんの講演を聞いたり、ミュージアムの観覧を行いました。また、授業では、札幌市スポーツ局及び札幌市教育委員会が作成したオリ・パラ教育副教材「私たちのまち札幌とオリンピック・パラリンピック」が活用されました。

授業は、「札幌オリンピックミュージアム」に行ったときの写真を見ながら、阿部さんの講演の内容を思い出すことから始まりました。そして、阿部さんがアルベールビル大会で団体戦のメンバーに入らずに挫折したが、諦めずに努力を続けて次のリレハンメル大会で金メダルを獲得した、というエピソードを時系列で整理し、その時々阿部さんの気持ちを考えたり、発表したりしながら進められました。児童達は、阿部さんのエピソードと自分の経験とを重ね合わせながら、阿部さんの気持ちに共感している様子でした。例えば、「リレハンメル大会でメンバーから外れてしまった阿部さんが諦めずに頑張れたのはなぜか？」という問いに対しては、「支えてくれる存在がいた」、「自分が頑張っている姿を子どもに見せたかった」などと阿部さんの気持ちを答えたり、また、「自分も運動会で応援してもらって頑張ることができた」という自分の体験について発表している様子が見られました。また、「阿部さんのエピソードの中で一番共感したところはどこか？」という質問に対しては、多くの児童達が「アルベールビル大会後に、阿部さんがもう一度頑張ろうと思いついたところに共感した」と回答していました。最後に、授業のまとめとして、阿部さんへの手紙を書きました。

授業後には、学校の先生、オリンピック、パラリンピアン、大学教員等から構成される「私たちのまち札幌とオリンピック・パラリンピック」の作成委員のメンバーを中心に検討会議が行われました。ここでは、主に札幌オリンピックミュージアムの活用方法と副読本の内容の 2 点について検討が行われました。前者に関しては、「ミュージアムがあることでオリンピックを身近に感じることができる」、「施設内にオリンピックのエピソードを中心としたスペースを作ってほしい」といった意見がありました。また、後者に関しては、「この副教材は入口で、少しずつ改良していきたい」、「自分の町に愛着を生むように副教材を活用していきたい」、などの意見が出されました。

○実践の様子



オリ・パラ教育副教材



ミュージアムでの学習の振り返り



文章資料の読み合わせ



話し合いの様子



授業のまとめ①



授業のまとめ②



阿部さんへの手紙を書く様子



検討会議の様子

2. 岩手県

(1) 2018 年度 岩手県オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

小学校 (4 校)	○盛岡市立仙北小学校 花巻市立笹間第一小学校 ○奥州市立田原小学校 ○釜石市立釜石小学校
中学校 (3 校)	盛岡市立上田中学校 盛岡市立乙部中学校 西和賀町立沢内中学校
高等学校 (3 校)	○岩手県立盛岡南高等学校 岩手県立一関第二高等学校 岩手県立久慈東高等学校
特別支援学校 (1 校)	○岩手県立花巻清風支援学校

※○が付いている学校は本センターの研究員が参観した学校
(計 11 校)

(2) オリンピアン講演を生かした継続的な取り組み

○学校名：岩手県奥州市立田原小学校

○実施日時：2018（平成 30）年 12 月 13 日（木）14：00-15：25

○対象：児童 26 名（3～6 年生）

○派遣オリンピック：星 奈津美 氏
（競泳 ロンドン大会 銅メダル、リオデジャネイロ大会 銅メダル）

○実践内容

2018（平成 30）年 12 月 13 日（木）に、岩手県奥州市立田原小学校にてオリンピック・パラリンピック教育実践が行われました。今回の実践では、競泳のオリンピックである星奈津美さんをお招きし、近隣のプール施設（えさしグリーンパーク）にて講演および実技指導が行われました。

田原小学校では、昨年度にも星さんによる講演が行われました。児童は、その時に星さんがお話しされた「前向き」「感謝」「チーム」という 3 つの大切なことを常に意識しながら、1 年間、体育授業等の様々な活動に取り組んできたそうです。そのため、再び星さんに会えることを非常に楽しみにしていたといいます。また、学校全体でも水泳に熱心に取り組んでいたり、地域でスイミングスクールに通っている児童がいるため、直接実技指導を受けられることにも喜んでいました。

はじめに、施設内の広間にて、星さんによる講演がありました。校長先生が星さんの紹介をした際には、昨年の講演内容が確認されましたが、児童は講演内容をしっかりと心に留めていた様子で、そのような児童の姿に星さんも驚き、また、喜んでいました。星さんからの「去年に比べて記録が伸びたり、できるようになった泳ぎがある人はいますか」という問いかけには全児童が手を挙げており、「みんな確実に前進しているね」と児童を褒めるとともに、目標をさらに大きくしようとエールを送っていました。

次にプールに移動し、実技指導が行われました。はじめに、星さんが模範としてクロールとバタフライを児童に紹介しました。間近でみる星さんの泳ぎの美しさや速さに、児童からは大きな歓声があがりました。

実技指導の前半には、バタ足なしのけのびや、けのびからのキック、ビート板を用いたバタ足が行われました。けのびの姿勢について星さんは、あごを出さずにまっすぐの姿勢を作ることや、指先まで伸ばすこと、また、深いところまでしっかりと潜ってから壁を蹴ること等をポイントとして伝えていました。バタ足については、足が水中から出ないようにして水の中で蹴ることや、膝を曲げすぎないことをポイントとして伝えていました。児童は星さんの話を熱心に聞きながら、自分の泳ぎに取り入れようとしていました。

休憩を挟んだ実技指導の後半では、ビート板に片手を乗せての呼吸や、腕のプルの練習を行いました。ここで星さんは、伸ばした腕と耳が離れないようにすることや、最後まできちんと腕でかき切ること、顔を前向きにしすぎないこと等を伝えていました。最後には、キックやプルのポイントを意識しながら、ポイントが 1 つでもできるように泳いでみようという指示があり、児童たちは一生懸命に泳いでいました。

星さんへの質疑応答の時間には、多くの質問があがりました。水泳の技能面に関しては、上手なクロールの息継ぎはどうしたらできるかということや、バタフライで足が下がってしまうのはどうしたらいいか、バタフライのテンポを上手くするための方法が質問されました。また、技能面以外に関しては、現役時代にやっていたトレーニングや、ライバルがいたかどうか、オリンピックに出場時やメダルを獲

得時の気持ち、東京オリンピックでの注目選手、なぜ水泳が好きなのか、苦しい時や辛い時をどう乗り越えたか、選手になって一番変わったと思うことは何か等の質問があがりました。

最後に代表児童からのお礼の言葉として、教えてもらったことを水泳やその他のことにも生かしていきたいとの感想が述べられました。

児童たちが施設を出る前には、星さんのメダルを実際にかけたりする場面がありました。星さんは「みんな一人ひとりと交流したい」という初めにお話しされた言葉の通り、全員と握手を交わしていました。児童たちも非常に嬉しそうな様子で、「もう終わっちゃうのかー、早いなあ」という話し声も聞かれました。夢中で活動に取り組んだ様子が見え、実践となりました。

○実践の様子



講演



星さんによる模範泳



実技指導①



実技指導②



実技指導③



星さんと握手をする児童

3. 埼玉県

(1) 2018 年度 埼玉県オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

高等学校 (4 校)	○埼玉県立上尾高等学校 ○埼玉県立児玉高等学校 埼玉県立羽生第一高等学校 ○埼玉県立深谷高等学校
特別支援学校 (3 校)	○埼玉県立上尾特別支援学校 ○埼玉県立入間わかくさ高等特別支援学校 ○埼玉県立地秩父特別支援学校

※○が付いている学校は本センターの研究員が参観した学校
(計 7 校)

(2) 地域の障害者スポーツイベントでの交流行事

○学校名：埼玉県立秩父特別支援学校

○実施日時：2018（平成 30）年 11 月 10 日（土）10：00-15：00

○対象：生徒約 20 名、地域の方々約 40 名

○実践内容

2018（平成 30）年 11 月 10 日（土）に、埼玉県立秩父特別支援学校にて、埼玉県障害者スポーツ協会主催の「ちちぶふれあいピック 2018」が開催されました。イベントの前の 2018 年 11 月 5 日（月）には、児童・生徒のパラリンピックへの理解を深めるとともに、イベントへの参加を促すことを意図して、パラリンピックリオデジャネイロ大会にボッチャの日本代表として出場された高橋和樹氏を招いた講演と実技指導が行われました。

障害者の多様なスポーツ活動への参加の機会拡大や障害者スポーツに関連した人々のつながりを創出すること等を目的としたこのイベントには、推進校である秩父特別支援学校の生徒だけでなく、地域の障害者福祉施設の方々等も大勢参加されました。また、秩父市や近隣の地域のご当地キャラクターも参加して、大いに会を盛り上げていました。

障害者スポーツ体験の会場はグラウンド、体育館、そして多目的室の 3 ヶ所に分けられ、参加者は受付で配られたパンフレットを元に自分がやりたいと思う種目に参加しました。グラウンドでは、短距離走やジャベリックスロー（槍投げの簡易版）の測定、さらにはフライングディスク等が行われました。体育館では、ターゲットボッチャ、ボッチャ、簡易型カーリング、ボックスホッケー、サウンドテーブルテニス等が行われました。多目的室では、スポーツ吹矢が行われました。

それぞれの種目が行われるところには、埼玉県障害者スポーツ指導者協議会等の方々がついて丁寧にやり方を教えてくださり、参加者は初めて行う種目でも安心して取り組むことができている様子でした。また、当日は天気にも恵まれ、ベストコンディションの中で行われた短距離走の測定では、普段の力を出し切ることができて喜ぶ生徒の姿が見られました。さらにボッチャ体験では、ボッチャ経験がある生徒も、普段より多くの観客の前で競技を行うため、少し緊張している様子が見られ、一球一球に緊張感が伝わってきました。投じたボールが白いジャックボールにぴたりとつく大きな歓声が上がっていました。

また、体育館での競技の合間には、ご当地キャラクターも一緒に参加してレクリエーション大会が行われました。大きな青いビニールシートの上にのったバケツとボールをビニールシートの側面だけを持ってボールをバケツに入れる、というゲームを行いました。2 チームに分かれて対抗戦形式で行ったため、手に汗握る接戦が繰り広げられ、とても盛り上がっている様子でした。

その他にも、会場では、パンや飲み物等の物販も行われており、地域のお祭りのような雰囲気もありました。

担当者の方の話では、今後さらに参加者を増やして、このイベントを契機に秩父地域の障害者スポーツが盛んになって、さらには秩父特別支援学校の生徒が地域や他の学校の子どもたちと交流する機会を増やしていきたい、とおっしゃっていました。

○実践の様子



高橋氏の講演



高橋氏の実技指導



オープニングセレモニー



フライングディスク



ターゲットボッチャ



ボッチャ交流会



ご当地キャラクターも参加したレクリエーション



物販

4. 横浜市

(1) 2018 年度 横浜市オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

小学校 (10 校)	横浜市立神奈川小学校 横浜市立白幡小学校 横浜市立一本松小学校 横浜市立本町小学校 横浜市立岡村小学校 横浜市立能見台小学校 横浜市立富岡小学校 横浜市立城郷小学校 横浜市立大曾根小学校 横浜市立鴨志田緑小学校
中学校 (4 校)	横浜市立市場中学校 横浜市立大鳥中学校 ○横浜市立汐見台中学校 横浜市立東野中学校
高等学校 (1 校)	○横浜市立横浜商業高等学校
特別支援学校 (1 校)	横浜市立日野中央高等特別支援学校

※○が付いている学校は本センターの研究員が参観した学校
(計 16 校)

(2) ごみ拾いイベントを活用したパラリンピック教育

○学校名：横浜市立横浜商業高等学校

○実施日時：2019（平成 31）年 1 月 12 日（土）10：00-16：00

○対象：生徒約 60 名（スポーツマネジメント科）、地域の方々

○派遣パラリンピアン：上原 大祐 氏

（パラアイスホッケー トリノ大会出場、バンクーバー大会出場、平昌大会出場）

○実践内容

2019（平成 31）年 1 月 12 日（土）に、横浜市立横浜商業高等学校にて、パラアイスホッケーの上原大祐さんの講演と実技指導が行われました。

横浜商業高等学校では、スポーツマネジメント科が設立された 5 年前から「ソーシャルスポーツイニシアティブ」の方と連携して、ごみ拾いを競技化した「Y 校カップ スポ GOMI 大会」を開催してきました。大会の企画から地域の方の参加者の募集、当日の運営までスポーツマネジメント科の生徒が中心に行うもので、毎年恒例のイベントになっています。「スポ GOMI 大会」は、約 5～8 人でチームを組み、制限時間内にどれだけごみを拾えるのかを競うものです。燃えるごみが 100g=10pt、ペットボトルが 100g=15pt など、ごみの種類によってポイントが決められており、最終的にポイントが多いチームが優勝というルールです。このような取り組みを元に、本事業の推進校となった今年は、上記の通常の「スポ GOMI 大会」と並行して、パラアイスホッケーの上原さんの協力のもと、「車イス スポ GOMI CHALLENGE」が行われました。「車イス スポ GOMI CHALLENGE」は、上記の競技を車いすに乗って行うもので、今回は横浜商業高校の生徒で構成された 2 チームが参加しました。参加者には、横浜商業高校周辺の地図や注意事項が書かれたルールブックが配布され、それを見ながら競技を行います。

開会式の前に、2 つの車いすチームには、上原さんから車いすの使い方等の指導が行われました。また、車いすチームには、特別なミッションが与えられました。1 つ目は、ごみ拾いをしながら街中の「バリア」を探すというものです。車いすに乗ってごみ拾いをすることで見つかる「バリア」を地図に記入していき、その解決策を記入することでポイントが得られます。2 つ目は、「車いす用駐車スペースを探す」、「身障者お手洗いを探す」、「健常者（普通）のトイレに入る」という 3 つのミッションです。これらの課題を実行し、気づいたことを記入することでポイントが得られます。

開会式では、実行委員長の生徒の挨拶、上原さんの挨拶、「ソーシャルスポーツイニシアティブ」の方の挨拶、代表生徒の宣誓があり、「ごみ拾いはスポーツだ！」の合図で競技がスタートしました。他のチームと違うエリアを攻めて多くのごみを獲得しようと、スタートと同時に各チームそれぞれの方向に散って行きました。車いすチームの生徒たちは、校門を出ると、車いすに乗っている生徒が車いすを押している生徒に対して指示を出しながら、他のチームが来ないくらい遠いエリアを狙ってごみを拾っていました。しかし、橋に差し掛かったところで、車道と歩道のわずかな段差にぶつかり立ち往生してしまいました。生徒からは、「段差難しい！」という声があがっていました。車いすを補助する生徒の助けを借りながら、何とか段差を乗り越えていました。また、普段通っている道にも関わらず、想像以上のごみの量を目の当たりにして驚いている様子も見られました。

約 1 時間の競技の後、各チームが学校に戻ってきて計量が行われました。優勝は地元の町内会のチームでしたが、車いすチームの生徒達は、賞以上の気づきを得た様子でした。閉会式では、上原さんから、この経験をきっかけに少しでも障害者に寄り添う気持ちをもってほしい、と声をかけられていました。

1 時間の休憩の後、上原さんの講演会とパラスポーツ体験会が行われました。パラスポーツ体験会では、ボッチャなどの種目が行われました。

○実践の様子



ルールブック

ルール	
競技時間は60分です。 時間内に必ず計測場所へ戻ってきてください。 ゴミ収集時には分別願います。	
【※100g以下の量でも、お持ち帰ります。】	
入れる 紙類、布類、雑誌類、弁当・食品容器包み ついでに袋など	100g → 10pt
入れない ※草、骨や骨、枝、車の廃材等は、入れるゴミとして含まれません。	100g → 5pt
ビン、缶 (ドリンク系など缶全て) 中身は捨てる。	100g → 10pt
ペットボトル 中身は捨てる。【キャップは、捨てるゴミへ】	100g → 15pt
たばこの吸い殻	100g → 100pt
「パリアフリー」バリアチェック 地図上に番号で示し、その番号を記入	20pt
「パリア」解消アイデア バリアに対して自分が何ができるかを記入	20pt
ミッションクリア 各チームに与えられたミッションを遂行	10pt
★粗大ゴミまたは、不法投棄されたものは絶対に持ち帰らないでください。 ※指定ゴミ袋に入らない長さ50cm以上の縦やすこみ、横さないでください。	

ルール一覧



上原さんの挨拶



スタートの合図



車いすでゴミ拾いをする生徒



集めたごみの計量

5. 岐阜県

(1) 2018 年度 岐阜県オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

小学校 (3 校)	岐南町立北小学校 ○海津市立大江小学校 郡上市立明宝小学校
中学校 (3 校)	八百津町立八百津中学校 ○土岐市立泉中学校 ○高山市立中山中学校
特別支援学校 (1 校)	岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

※○が付いている学校は本センターの研究員が参観した学校
(計 7 校)

(2) パラリンピック教育用デジタル教材を活用した事前学習とパラリンピアン講演

○学校名：岐阜県海津市立大江小学校

○実施日時：2018（平成 30）年 11 月 1 日（木）9:40-11:00

○対象：全校児童 61 名

○派遣パラリンピアン：前川 楓 氏

（女子パラ陸上競技 走り幅跳び T42 リオデジャネイロ大会第 4 位）

○実践内容

2018（平成 30）年 11 月 1 日（木）に、岐阜県海津市立大江小学校にて、障害者陸上・幅跳びの前川楓さんによる講演および実技指導が行われました。

「私のこれまでの経緯 ― 好きを大切に！」というテーマで行われた講演では、はじめに、前川さんが障害を負ってから陸上をはじめるまでの経緯と、競技者として心がけていることを話して下さいました。

前川さんは、元々、運動好きではなく、得意でもなかったといいます。しかし、当時仲が良かった友達の誘いで中学校のバスケ部に入部したところ、その面白さにすっかりはまり、もっと上手になりたいと練習に励んだといいます。3 年時には副キャプテンに選ばれましたが、スターティングメンバーにはなれませんでした。

中学 3 年時、前川さんは、交通事故によって、大腿部以下の切断を余儀なくされました。手術後は、激しい痛みで襲われ、食事もままならず、ベッドでの生活がしばらく続いたといいます。友人に会えるようになってからは、市で優勝したチームのメンバーに対して「おめでとう！」と嬉しい気持ちを抱く一方で、徐々に、「何で私が」と悔しさも強くなっていったそうです。事故前までは当たり前に行っていたことや、面倒と感じていた行事の準備等をみんなと一緒にできなくなってしまったことが悲しく、また、友人からは「どう接したらいい？」と聞かれたこともあったそうです。

1 年間の松葉杖生活の後で義足を作ることになった頃、2 つの出来事がありました。1 つ目は、義足モデルの GIMICO さんの活躍を知ったことです。「私もこんな風になりたい」と感じるようになった前川さんは、脚を切断したからこそ出会った人がたくさんいることや、「ただ脚がなくなっただけ」、まずはやりたいことに挑戦しようと思うようになったそうです。そして 2 つ目が、パラ陸上の選手であった大西瞳さんに会ったことです。大西さんから陸上のユニフォームをもらったことで、陸上を始めました。初めて大会に出場した際には、良い記録ではなかったにも関わらず、脚を切って初めて風を感じてとても楽しかったと話して下さいました。

その後、もっと速くなりたいと陸上部に入部し、世界大会への出場も果たしましたが、リオパラリンピックでは自己ベストを更新したにも関わらず、メダルには届きませんでした。このままではだめだと感じ、通っていた短大を辞めて新しい環境を探す中でイムラアスリートアカデミーを見つけたといいます。障害を負うまでは、パラアスリートに対して「障害あるのにすごいな」と思っていたのですが、今は、「あるもの（障害）を最大限に生かして戦う」のがパラアスリートだと思うようになったといいます。前川さんにとっても、自身の障害は最大の武器であり、義足は、速く走るためのカッコいいものだと話していました。

講演の最後には、「好き」を大切にすること、向上心を忘れないこと、「ありがとう」をたくさん言うことの 3 つを、児童へのメッセージとして強くお話しして下さいました。特に 3 つ目については、義足

になってから家族や周囲の方の支えをより感じるようになり、お礼を口にする機会が増えたと、ご自身の経験を話していました。

講演の後には、日常生活用と競技用の義足に、児童が触れる場面も設けられました。児童は、義足を目の前にすると、はじめは、恐る恐る義足に触れていましたが、慣れてくると、持ち上げたり、熱心に観察し、「金属の部分が重い」といった感想も聞かれました。その後、全校児童を対象とした、実技指導が行われました。ストレッチや簡単なトレーニングについて、児童は一生懸命に話を聞きながら、楽しそうに取り組んでいました。

大江小では、今回の講演に先立ち、パラリンピック教材の「I'mPOSSIBLE」や、車いす陸上の副島さんの姿を記録したパラリンピック教育用デジタル教材「夢に向かって」を用いて事前学習を行いました。事前学習においても、パラ競技に対する児童の興味関心は高く、特に、副島さんのDVDについての感想文はしっかりと書かれていたとのことです。事前学習とアスリートによる講演が、有意義に関連づけられた実践でした。

○実践の様子



講演の様子



義足に触れている様子



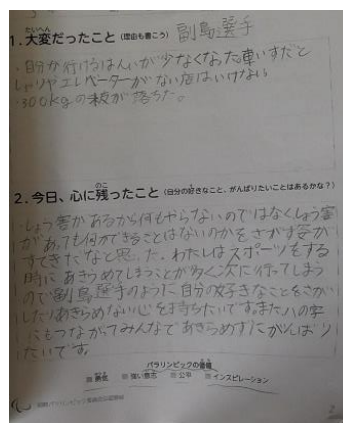
実技指導の様子①



実技指導の様子②



全体での記念撮影



事前指導時の児童の感想文

6. 静岡県

(1) 2018 年度 静岡県オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

小学校 (20 校)	沼津市立第一小学校 三島市立向山小学校 富士宮市立柚野小学校 富士宮市立人穴小学校 伊東市立八幡野小学校 伊東市立西小学校 富士市立富士第一小学校 富士市立鷹岡小学校 下田市立浜崎小学校 裾野市立向田小学校	伊豆市立修善寺南小学校 ○伊豆の国市立大仁小学校 函南町立函南小学校 小山町立須走小学校 焼津市立豊田小学校 掛川市立中央小学校 藤枝市立葉梨西北小学校 菊川市立加茂小学校 菊川市立河城小学校 磐田市立東部小学校
中学校 (7 校)	沼津市立第二中学校 三島市立中郷中学校 伊東市立北中学校 富士市立田子浦中学校	函南町立東中学校 小山町立北郷中学校 磐田市立豊田中学校
高等学校 (9 校)	○静岡県立伊東高等学校 静岡県立伊東商業高等学校 静岡県立伊豆総合高等学校 静岡県立伊豆中央高等学校 静岡県立裾野高等学校	静岡県立富士宮東高等学校 静岡県立藤枝西高等学校 静岡県立袋井商業高等学校 静岡県立磐田北高等学校

※○が付いている学校は本センターの研究員が参観した学校
(計 36 校)

(2) 総合的な学習の時間を活用したボッチャ体験

○学校名：静岡県伊豆の国市立大仁小学校

○実施日時：2018（平成 30）年 10 月 25 日（木）8：40-10：15

○対象：児童 24 名（4 年生 1 クラス）

○実践内容

2018（平成 30）年 10 月 25 日（木）に、伊豆の国市立大仁小学校にて、パラリンピック種目のボッチャを体験するオリ・パラ教育実践が行われました。実践は、担任の先生によるボッチャ競技についての説明がはじめに行われ、その後、6 チームに分かれた児童達が、2 つのコートでボッチャの体験を行いました。一生懸命に説明を聞いたり、歓声をあげながらボッチャを体験する児童の様子が多く見られた充実した実践となっていました。

実践のはじめには、担任教諭から VTR を用いたボッチャ競技のゲームの様子が紹介されました。的確にコントロールされたボールや白熱したプレイの様子に、児童達は驚きの声や歓声をあげていました。対象となった学級では、他のパラリンピック種目や、それらで用いられている道具、あるいは、支える人々についての事前学習が行われていたとのことで、児童達のパラリンピック種目に対する高い興味関心がうかがえました。また、ルール説明にも熱心に耳を傾け、質問を交えながら、しっかりと理解しようとしていました。

ボッチャは、エンド終了時にジャックボールにもっとも近いボールを投げた側にのみ得点が入ります。今回の実践では、ジャックボールからの距離を測るための道具として、児童が前年度に使い方を学んだというコンパスが用いられていました。児童達は、教師が師範の際に用いる大きなコンパスを使って、丁寧に得点の計算をしていました。教科横断的な工夫がなされた道具の活用であったといえます。

ゲームを数回実施した後には、担当の先生によって作成された条件カードを用いて、身体的な動きの制限がある中でのゲーム参加を体験する場面が設けられていました。この条件カードには、たとえば、「肘から先を動かさない」や「いすに座ってボールを投げる」という条件が書かれていました。児童達は、各チームで 1 枚のカードを引き、そのカードに書かれている条件下でプレイをすることになっていました。数回のゲームを通してコツをつかみ始めていた児童たちも、それまでとは異なる身体の使い方が必要となることに難しさを感じたり、工夫を凝らしたりしていました。

児童からは、「実際にやってみて面白かった」や「もっと広いコートでやってみたい」、「本物のボッチャのボールの方が良い」、「コントロールが思っていたよりも難しかった」等の感想が聞かれました。

今回の実践は、事前学習だけでなく、12 月に実施が予定されているパラリンピック選手の講演や、道徳の授業とも関連づけて、発展的に行われていくとのことです。また、用具等の準備状況もふまえ、来年度以降にも継続して実施していきたいとのことでした。

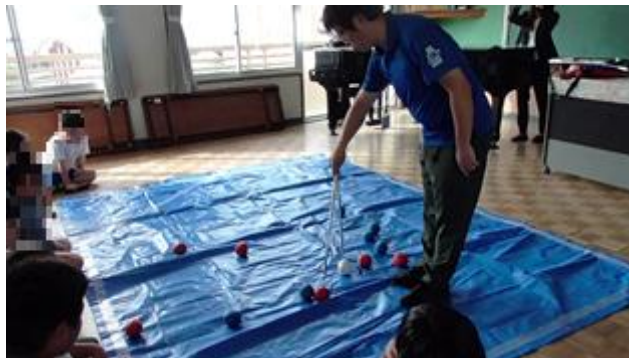
授業全体を通じて、ボッチャのボールの性質を活かし、バウンドさせずに転がしたり、あるいは、高く上がるようにボールを投げてゲームを楽しむ児童の姿が印象的な実践でした。また、ボールの近くで配置を確認しながら、チーム内でお互いにアドバイスを送って戦術を考えながらプレイする姿や、ジャックボールに近い投球をした際に歓声をあげる姿も多くみられました。今回の実践を通して、ボッチャに親しむとともに、障害の有無に関わらず楽しむことのできるボッチャ競技への理解を深めている様子でした。

教科横断的な様々な用具や場面設定の工夫がなされるとともに、発展的な学習も計画された有意義な実践となっていました。

○実践の様子



ルール説明



コンパスを用いた距離測定



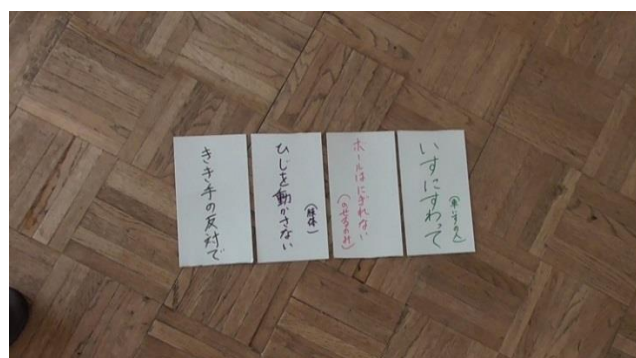
ゲーム①



ゲーム②



ゲーム③



条件カード



車いすを想定した座位でのスロー



肘を動かさない投球

7. 静岡市

(1) 2018 年度 静岡市オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

小学校 (3 校)	○静岡市立中藁科小学校 静岡市立宮竹小学校 ○静岡市立清水入江小学校
中学校 (3 校)	静岡市立梅ヶ島小中学校 静岡市立大河内小学校 ○静岡市立清水両河内中学校
高等学校 (1 校)	静岡市立高等学校

※○が付いている学校は本センターの研究員が参観した学校
(計 7 校)

(2) 指導員及びアスリートを招いたボッチャ体験

○学校名：静岡市立両河内中学校

○実施日時：2018（平成 30）年 10 月 24 日（水）13：35-14：35

○対象：生徒 36 名（全校）

○派遣指導員：大塚 康夫 氏

（社会福祉法人 静岡市しみず社会福祉事業団 上級障がい者スポーツ指導員）

派遣アスリート：繁田 一紀 氏

（社会福祉法人 静岡市しみず社会福祉事業団）

○実践内容

2018（平成 30）年 10 月 24 日（水）に、静岡市立両河内中学校にて、静岡市しみず社会福祉事業団の大塚康夫さんと、アーチェリーやフライングディスクの選手である繁田一紀さんを講師としてお招きしたオリ・パラ教育実践が行われました。実践当日は、大塚さんからボッチャについての説明があり、その後、生徒達は 3 コートに分かれてボッチャを通して交流を深めました。

両河内中学校では、毎年、近隣の社会福祉施設との交流行事を行っており、多くの生徒が希望して参加しているとのことです。昨年度、その一貫としてボッチャを取り入れた際には、ボッチャのプレイを通して会話が弾むようになった様子や、施設利用者との積極的な交流がみられたといえます。そこで今年度は、オリ・パラ教育と関連付けながら、より本格的なボッチャの体験会として本実践が行われました。講師の派遣や用具の準備に関しては、静岡市との連携によって実現したものでした。

前年度までに社会福祉施設においてボッチャを経験したことのある生徒は約半数で、残りの生徒は今回の実践での体験が初めてとのことでした。はじめに、上級障がい者スポーツ指導員の大塚さんから、実際のボッチャの様子が VTR によって紹介され、次に、ルールについての説明がありました。ボッチャは、個人戦や団体戦だけでなく、障害レベル別に階級が分かれています。基本的には、白いジャックボールを的とし、そこにどれだけ多くの持ち玉を近づけることができるかを競う、というルールがありますが、得点獲得のための戦術は多様であり、非常に奥の深いスポーツです。

生徒達は大塚さんの説明を熱心に聞いた後、すぐに 3 コートに分かれてゲームを始めていました。

ボッチャのボールは片手でつかめる程の大きさであるにも関わらず、重さが約 275g の革製であるため、大きなバウンドをせず、独特の動きをします。生徒達はその使い方を徐々に理解しながら、ゲームを楽しんでいました。また、車いすに座った状態での投球や、自力での投球が困難な選手のための勾配具（ランプ）を用いた投球ならびにその補助役の体験にも、積極的に取り組んでいました。ゲームの進行とともにボールを投げるコツをつかんでくると、投球の失敗を悔しがる様子や、得点を取って喜ぶ様子も見受けられました。

車いすでのボッチャだけでなく、アーチェリーやフライングディスク等にも取り組んでいる繁田さんからも、投球の際のアドバイスや、得点の計算方法が話され、生徒達はゲーム中にも熱心に耳を傾けていました。

実際に体験した生徒からは、「意外と難しい」等の声が聞かれ、今回の実践がパラリンピック種目を体験し、理解するうえで貴重な機会になっていたことがうかがえました。

交流会の最後には、校長先生から、これから行われる社会福祉施設での交流行事等にも活かしてほしいと生徒達にお話があり、加えて、講師を務めた大塚さん、繁田さんへのお礼の言葉が述べられました。

総合的な学習に位置付けられている「福祉」の時間に関連付けて行われた、今回の両河内中学校でのオリンピック・パラリンピック教育の実践は、地域と連携することで、今後も継続的に実施していくことが期待されています。

○実践の様子



ルール等説明①



ゲーム①



ゲーム②



ゲーム③



ゲーム④



ゲーム⑤

8. 滋賀県

(1) 2018 年度 滋賀県オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

小学校 (2 校)	○甲賀市立柏木小学校 ○彦根市立河瀬小学校
中学校 (2 校)	滋賀県立河瀬中学校 大津市立皇子山中学校
高等学校 (1 校)	滋賀県立甲南高等学校・高等養護学校
特別支援学校 (5 校)	滋賀県立長浜養護学校 滋賀県立野洲養護学校 滋賀県立守山養護学校 滋賀県立盲学校 ○滋賀県立新旭養護学校

※○が付いている学校は本センターの研究員が参観した学校
(計 10 校)

(2) 障害者スポーツを通じた地域住民との交流

○学校名：滋賀県立新旭養護学校

○実施日時：2018（平成 30）年 11 月 5 日（月）10：30-11：40

○対象：生徒 9 名（高等部）、地域住民の方 7 名

○実践内容

2018（平成 30）年 11 月 5 日（月）に、滋賀県立新旭養護学校にて、卓球バレーを通じた高等部生徒 9 名と地域住民の方との交流会が行われました。当日は、7 名の地域住民の方々が参加され、充実した交流会となりました。

新旭養護学校では、3 年前にはフライングディスク、2 年前にはグランドゴルフで地域との交流会を実施したことがあるとのこと。今年度は、卓球バレーを用いた取り組みを行っていました。

卓球バレーは、卓球台を用いて、ネットを挟んだ 2 チーム（1 チーム 6 名）が椅子に座ってボールを転がし、相手コートに 3 打以内で返球するゲームです。使用するボールは、視覚障害者卓球で用いられる金属球入りの卓球ボールで、ラケットには縦横 30cm 以内の大きさの木製の板が用いられます。ボールは必ずネットの下を通さなくてはならず、プレイが簡単であるため、障害の有無、種類や度合いに関わらず、楽しくゲームに参加できることが特徴です。今回の実践では、1 チーム 4 名の 4 チームが編成され、時間制でゲームが行われました。また、生徒の実態に合わせ、3 球以内での返球に限定せず、パスは何回でも繋いでよいこととし、交互にサーブを行うというルールを取り入れて実施しました。

交流会のはじめには、自己紹介の時間が設けられました。名前や学年に加え、好きな食べ物を紹介しあい、場は和やかな雰囲気となりました。次に、チーム編成が行われ、それぞれがチーム名を決めました。4 つのチーム名はそれぞれ、「チョモランマチーム」、「電車で GO チーム」、「スイカチーム」、「ソフトバンクチーム」で、チーム名を決めたことで、チームとしての一体感が出た様子でした。その後、チーム練習を 5 分程度行い、4 チームの総当たり戦のゲームが展開されました。

生徒達はこれまでも数回、卓球バレーを経験したことがある一方で、参加された地域の方々は、初めて行うという方ばかりでした。しかし、地域の方々もすぐにコツをつかみ、楽しくゲームに参加している様子でした。はじめはボールを打つ力加減が難しく、ネットの上を越えてしまったり、アンテナの外側にボールが転がってしまうといった様子も見受けられましたが、慣れてくると、ボールも速くなり、緩急のあるプレイも出ていました。加えて、チーム内でパスをするときには、声を掛け合う様子もみられました。相手チームのプレイヤーの間をつくボールでの得点等には、歓声も上がり、盛り上がりのあるゲームが展開され、ゲームを見ている周囲の先生方からも、大きな声援や歓声があがっていました。

授業の最後には、代表生徒から「少し緊張したけれど、よくプレイできました」という感想が述べられ、また、地域住民の代表者からも、「非常に楽しいひとときを過ごせて嬉しく思っています。また、今後もこのような機会を楽しみにしています」との感想が話されました。

障害の程度が重く、ラケットの操作に困難がみられる生徒のポジションには木の棒が置かれ、ボールがアウトになりにくい配慮がなされていました。また、生徒の実態に合わせ、ラケットの持ち手部分が握りやすいような工夫も施されていました。

今回の実践では、誰でも楽しむことができるスポーツを活用することで、生徒と地域住民の交流がより一層促されていました。会のはじめには、校長先生からも、「交流会を楽しんで頂いた上で、今後地域でも卓球バレーをやってみたいというご要望があれば、卓球台をお貸しすることも可能ですので、是非ご連絡下さい」とのお話がありました。地域の方々との今後の交流にもつながる実践となっていました。

○実践の様子



用いた用具



使用したコート



自己紹介



チーム名を考える様子



ゲーム開始時



ゲーム①



ゲーム②

	カメラ	電車GO	ソトバンク	スイカ
カメラ		○ 10-9	△ 6-6	× 4-5
電車GO	× 9-10		× 8-16	△ 7-7
ソトバンク	△ 6-6	○ 15-8		× 9-10
スイカ	○ 5-4	△ 7-7	○ 10-9	

得点表

9. 広島県

(1) 2018 年度 広島県オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

小学校 (9 校)	福山市立霞小学校 福山市立東小学校 福山市立加茂小学校 ○福山市立久松台小学校 福山市立樹徳小学校	福山市立山手小学校 東広島市立小谷小学校 海田町立海田小学校 尾道市立吉和小学校
中学校 (10 校)	○福山市立内海中学校 福山市立加茂中学校 ○東広島市立高屋中学校 ○熊野町立熊野東中学校 ○尾道市立因北中学校	尾道市立因島南中学校 尾道市立向東中学校 尾道市立御調中学校 尾道市立向島中学校 三次市立作木中学校
高等学校 (16 校)	広島県立広島皆実高等学校 広島県立福山葦陽高等学校 広島県立世羅高等学校 ○広島県立三次高等学校 広島県立五日市高等学校 広島県立高陽高等学校 広島県立神辺旭高等学校 広島県立湯来南高等学校	広島県立庄原実業高等学校 広島県立尾道商業高等学校 ○広島県立呉宮原高等学校 広島県立呉三津田高等学校 広島県立賀茂高等学校 広島県立安西高等学校 ○広島県立大崎海星高等学校 広島県立千代田高等学校
特別支援学校 (1 校)	広島県立広島中央特別支援学校	

※○が付いている学校は本センターの研究員が参観した学校
(計 36 校)

(2) オリンピアンによる講演とスポーツ交流

○学校名：広島県福山市立内海中学校

○実施日時：2018（平成 30）年 11 月 14 日（水）10：00-11：45

○対象：生徒 36 名（全校）

○派遣オリンピック：廣田 遙 氏

（女子トランポリン アテネ大会 7 位、北京大会 12 位）

○実践内容

2018（平成 30）年 11 月 14 日（水）に、広島県福山市立内海中学校にて、トランポリンの廣田遥さんの講演と実技体験が行われました。

「諦めない心の持ち方」というテーマで行われた講演において、廣田さんは、自身がトランポリンを始めて、オリンピックに出場するまでの経験を振り返りながら、生徒達がこれから生きていくうえで大切にしてほしいことをお話しされました。

元々、翻訳家になりたかった廣田さんは、小学生のときに友達の誘いでオーストラリアに留学することになりました。その際、ホームステイ先でトランポリンを初めて経験したことがきっかけで、トランポリンを始めることになりました。日本に帰国後、トランポリンの楽しさを忘れられなかった廣田さんは、地元でトランポリンクラブを探して入部しました。そのクラブの練習場は、家から 2 時間ほどかかる場所にありましたが、毎日の練習が楽しかったことから苦にならなかったそうです。しかし、周囲の友達が幼少期からトランポリンを行っていたのに対して 12 歳からトランポリンを始めた廣田さんは、常に周囲から、友達みたいにうまくなるのは無理だと言われてきました。そんな中、トランポリンクラブの先生だけは、「人の 3 倍の努力をすれば、友達よりもうまくなれる」と言ってくれたそうです。この言葉を信じて、廣田さんは、毎日先生から与えられた練習メニューを 3 倍するようになりました。そのため、それまで以上に練習に時間がかかるようになったことから、移動の電車内で学校の宿題を行うなど、時間を有効に使うようになったそうです。このような努力の結果、競技を始めてわずか 3 年でジュニアの日本代表に選ばれて世界の舞台上で活躍するようになりました。

しかし、高校に入学するとそれまでのように人より 3 倍の努力を続けても、結果がなかなか出ずに、スランプに陥ってしまいました。そんなとき、母親から普段の身体トレーニングに加えて精神トレーニングも加えたらよいのではないか、というアドバイスを受けました。そこで、呼吸法や試合前に集中力を高めるルーティーンを作ったりして、試合によりよい精神状態で挑めるような努力をしたところ、全日本選手権で優勝することができ、アテネオリンピックの出場権も獲得しました。そこから全日本選手権 10 連覇を果たした廣田さんでしたが、北京オリンピックに向けてトレーニングをしていた 2008 年に肉離れと骨折という大けがを負ってしまいました。大会への出場も諦めなければならぬかと思っていたところ、「1 パーセントでも可能性があるならそこに賭けてみよう」と言ってくれたトレーナーなどのサポートによって、北京オリンピック本番では無事に演技をすることができたそうです。

このような自らの競技生活を振り返りながら、廣田さんは、生きていく上で、人より勝るためには人の 3 倍の努力をすることが必要であること、身体的な強さだけでなく精神的な強さ（諦めない心）も大切であること、そして周囲への感謝の気持ちを持つことが大切であることを伝えられました。そして最後に、もし諦めそうになったときは、自分が成長しているときだと思って今日の話を思い出してほしい、とお話しされました。

質疑応答では、初めて外国に行ったときのことやトランポリン競技の国際レベルの変化についてなどの質問がでました。また、「時には諦めて切り替えることも大切なのではないか」という生徒の意見に対しては、自分が納得するまで諦めずに取り組むことが次につながっていくのではないかと回答していました。

講演後には、1、2年生合同チーム対3年生の対抗縄跳び大会を実施しました。生徒からは自然に「頑張れ」、「諦めるな」といった励ましの声や「縄が長い」、「回すスピードが遅い」などのアドバイスも出ていました。

最後の代表生徒の挨拶では、これから高校受験に立ち向かう上で廣田さんから教わった諦めない心を大切にしていきたい、と感謝の言葉が送られました。

○実践の様子



講演①



講演②



質疑応答



縄跳び大会①



縄跳び大会②



記念撮影

10. 香川県

(1) 2018 年度 香川県オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

小学校 (6 校)	三豊市立勝間小学校 ○三豊市立吉津小学校 三豊市立比地大小学校 三豊市立財田小学校 三豊市立大見小学校 さぬき市立志度小学校
中学校 (1 校)	三豊市立豊中中学校
高等学校 (2 校)	○香川県立坂出高等学校 香川県立高瀬高等学校
特別支援学校 (1 校)	香川県立香川丸亀養護学校

※○が付いている学校は本センターの研究員が参観した学校
(計 10 校)

(2) 文化祭におけるオリ・パラ展の開催・運営

○学校名：香川県立坂出高等学校

○実施日時：2018（平成 30）年 9 月 9 日（日）9：00-14：00

○対象：全校生徒および地域住民

（1 年生の HR 委員を中心としたオリ・パラ展の開催・運営）

○実践形態：坂出高校文化祭におけるオリ・パラ展の開催

【展示】オリ・パラ新聞（生徒が夏休みの課題として実施した調べ学習の成果）

オリ・パラ展（ロンドンパラでの競技の写真パネル及び競技の説明ポスター）

【体験】シッティングバレーボール、ボッチャ

○実践内容

2018（平成 30）年 9 月 9 日（日）に行われた香川県立坂出高等学校の文化祭にて、1 年生 HR 委員を中心としたオリ・パラ展が開催されました。今回のオリ・パラ展の目的は「オリ・パラ教育推進校である坂出高校の文化祭において、夏休み期間中にパラリンピックについて調べたことを発表したり、シッティングバレーの体験ができるように企画したりして、パラリンピックについて発信する」というものでした。

生徒たちは、文化祭での展示に向けて、①パラリンピックとは（歴史等）、②パラリンピックの競技種目（1 種目に着目、オリンピック種目との違い等）、③多様性の理解（様々な違いへの理解と共生社会について等）、④2020 年の東京大会エンブレム・マスコットについて、⑤オリ・パラのボランティア活動について、⑥大会会場について、という提示された 6 つのテーマから興味関心のある内容を選択し、新聞を作成しました。各生徒たちによって作成された新聞は、写真や図表および記事の割付けが工夫され、丁寧に作成されていました。実際に新聞を作成した生徒たちからは、「オリンピックと比べてパラリンピックへの関心や認知が低いことに気づいた」や、「パラリンピックについて知らなかったことを知ることができてよかった」、「東京大会ではパラリンピックもみてみたい」等の感想が聞かれました。

パラリンピック種目の体験会では、当初から予定されていたシッティングバレーに加え、ボッチャのコーナーが設けられました。生徒たちは交代で体験コーナーの担当となり、来場者にルールを説明したり、ゲームの運営を行ったりしていました。ボッチャの体験コーナーでは、その競技特性から、小さな子どもたちが興味を持つことも多く、担当の生徒たちは保護者と一緒にゲームを楽しんでいました。また、通常のバレーボールとは異なり、座った状態でのプレイが要求されるシッティングバレーでも、白熱したプレイが多くみられました。実際に競技を体験した人たちからも「思ったより難しかったけど面白かった」や、「実際の競技もみてみたい」といった声が聞かれ、生徒たちが運営した体験会が、地域の人びとのパラリンピックについての興味関心を高めることにもつながっていたことがうかがえました。

坂出高校の文化祭でのオリ・パラ展を担当された先生からは、調べ学習や準備などを行う前の段階では、生徒たちの間のモチベーションに差もみられたが、自分たちで調べていくうちに興味を持つようになった生徒が多かったこと、また、文化祭の展示や体験を通して、たくさんの人たちに興味関心をもってもらえたことが今後の取り組みにつながると思うなどの感想がありました。さらに、シッティングバレーについては、クラスごとにチームを作り、LHR の時間を活用して 2 学期に引き続き取り組んでいく予定であるということや、文化祭でのオリ・パラ展の開催については来年度も実施したいとの話がありました。

今回の文化祭でのオリ・パラ展の開催は、中心として活動した生徒たちのオリ・パラに関する興味関心を高めるだけでなく、教科横断的なオリンピック・パラリンピック教育の実践となっていました。さらに、ボッチャの用具は坂出市社会福祉協議会から、展示物として使用された写真パネルは日本障がい者スポーツ協会から借りたものであり、また、パラリンピック競技の説明ポスターは東京都八王子市国際スポーツ大会推進室から取り寄せたものであったということから、様々な機関や地域とのつながりを活かして、多くの人びとがオリンピック・パラリンピック教育に触れる機会にもなったオリンピック・パラリンピック教育の事例であったといえます。ボッチャのルール説明

○実践の様子



ボッチャのルール説明



生徒が作成したオリ・パラ新聞の掲示



ボッチャの運営



シッティングバレー



写真パネルの展示



パラ競技の紹介ポスターの展示

11. 熊本県

(1) 2018 年度 熊本県オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

小学校 (10 校)	菊陽町立武蔵ヶ丘北小学校 小国町立小国小学校 ○甲佐町立甲佐小学校 水俣市立袋小学校 熊本市立力合西小学校	○熊本市立長嶺小学校 ○熊本市立白山小学校 熊本市立北部東小学校 熊本市立城山小学校 ○熊本市立託麻東小学校
中学校 (8 校)	宇土市立鶴城中学校 南関町立南関中学校 八代市立第一中学校 あさぎり町立あさぎり中学校	天草市立本渡中学校 ○山鹿市立山鹿中学校 熊本市立長嶺中学校 熊本市立北部中学校
高等学校 (3 校)	熊本県立鹿本高等学校 ○熊本県立八代東高等学校 熊本県立熊本西高等学校	
特別支援学校 (2 校)	熊本県立盲学校 ○熊本県立松橋支援学校	

※○が付いている学校は本センターの研究員が参観した学校
(計 23 校)

(2) 地域の小学校によるオリンピックの講演の合同開催

○学校名：熊本県甲佐町立甲佐小学校、白旗小学校、乙女小学校、龍野小学校

○実施日時：2019（平成 31）年 1 月 18 日（金）14：00-15：30

○対象：児童 計 178 名（各校 5、6 年生）

○派遣オリンピック：水井 妃佐子さん

（バドミントン バルセロナ大会 9 位、アトランタ大会 9 位）

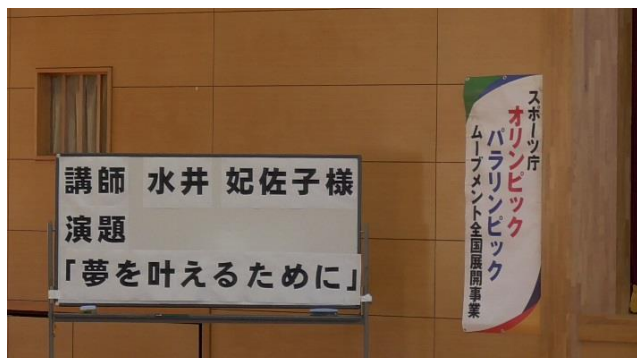
○実践内容

2019（平成 31）年 1 月 18 日（金）に、熊本県甲佐町立甲佐小学校にて、バドミントンでバルセロナオリンピックおよびアトランタオリンピックに出場した水井妃佐子さんをお招きしたオリ・パラ教育の実践が行われました。当日は、水井さんによる講演会と、全体ならびに代表児童への実技体験が行われました。また、今回の実践は、甲佐小学校の体育館に甲佐町立の 4 つの小学校の児童が集合して、合同で行われました。

「夢を叶えるために」というテーマで行われた講演会は、水井さんがバドミントンを始めてからオリンピック出場に至るまでの過程で考えたことや感じたことを中心に展開されました。水井さんは、幼い頃から、習字、そろばん、ピアノ等たくさんの習い事を行っていましたが、バドミントン以外は長続きしませんでした。小学校 2 年生のときにバドミントンクラブに入った水井さんは、バドミントンをするのがとても楽しかったため、週 2 日の練習では満足できなくなり、小学校 5 年生のときに、週 5 日練習をして大会への出場を目指すようになりました。その成果もあり、小学校 6 年生のときには出身地の奈良県で 3 位になることができました。このとき水井さんは、1 位になれなかった悔しさから、中学校では絶対に奈良県で 1 位になろうと決意し、バドミントンの強豪校に進学しました。しかし、バドミントンの強豪校ゆえに、部員も多く、十分な練習ができない日々が続きました。そして、中学校 1 年生のときに出場した奈良県大会で、まさかのベスト 16 で負けてしまいました。県大会で 1 位になることを目指してバドミントン部の強い中学校進学したにも関わらず出鼻をくじかれてしまった水井さんは、練習環境を変える決意をします。家族を説得して大阪にあるバドミントンの強豪校に転校することになりました。転校後は、自分の意思で転校をしたのだから、どんなに辛くても誰にも負けないという強い気持ちで練習に励みました。その結果、中学校 3 年生のときに全国大会で 3 位になることができました。このように実力が結果に結びつくようになり始めた水井さんでしたが、高校に進学して間もなく、全治 3 ヶ月の手のケガを負ってしまいました。そのときに、水井さんは手を使わないトレーニングを実施したり、チームのために雑務を行ったりしたことで、選手以外の人の支えによってチームが成り立っていることを強く自覚しました。このような経験を経て、高校 3 年生のときにはインターハイで優勝し、念願の全国 1 位になることができ、さらに 20 歳のときにはバルセロナオリンピックに出場することができました。このような自身の競技生活を振り返りながら、水井さんは、自分が楽しいと思えることを大切にすること、自分の目標に向けて努力すること、そして周囲のサポートの重要性に気づくこと等のメッセージを児童に送られました。講演は、水井さんが児童に対して「バドミントンをやったことがある人？」、「習い事をしている人？」等、問いかけながら終始和やかな雰囲気で行われました。また、時折、水井さんが児童に伝えたいと思う重要なポイントはホワイトボードに書きながらお話しされました。

実技体験では、スマッシュを受ける体験や水井さんと児童及び先生の対決等が行われました。最後に質疑応答と代表児童の挨拶があり、終了となりました。

○実践の様子



講演会の会場



校長先生の話



児童への問いかけ



ポイントをホワイトボードに書きながら説明



バドミントンのルール説明



ラリー体験



先生との対戦



質疑応答

< ワークショップ 実施報告 >

1. 地域ワークショップ

【 札幌市 ワークショップ 】

日時：2019（平成 31）年 2 月 25 日（月）15：00-16：40

会場：札幌市生涯学習センター ちえりあ

主催：札幌市教育委員会、札幌市スポーツ局
早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：推進校の教員 63 名

プログラム：

15：00-15：05 開会挨拶

札幌市教育委員会学校教育部 教育課程担当課 指導主事 末原 久史 氏

15：05-15：40 実践報告

八軒西小学校：研究課題 1

「オリンピック・パラリンピアンや、その指導者等を学校に招いて講演会を行う学習に関する研究」

藤野中学校：研究課題 2

「オリンピック・パラリンピアン等を講師に招いてスポーツ体験を行う学習に関する研究」

～「あすチャレ！スクール」の取組～

15：40-16：30 パラリンピック教育研修会

「I'mPOSSIBLE」の活用についての研修

札幌市教育委員会学校教育部 教育課程担当課 企画担当係長 指導主事 鈴木 圭一 氏

パラリンピック指導研修会

（ボッチャ・車いすカーリング・障がい者用バイアスロン及びシットスキー）

北海道ボッチャ協会 樋口 幸治 氏、石川 英仁 氏

16：30-16：40 閉会行事

開会にあたり、札幌市教育委員会学校教育部教育課程担当課の末原氏が、「今年度、札幌市では、子どもたちがスポーツの価値を再認識し、より一層スポーツ文化に触れることを目指し、オリンピックミュージアムを活用した時実践など、札幌市ならではの取組みを行ってきた。本日の報告会を通して、今後、より充実したオリ・パラ教育を展開していきたい。」と、挨拶をされました。

次に、実践報告会では、推進校を代表して八軒西小学校と藤野中学校の 2 校から、今年度の実践報告がありました。八軒西小学校では、カルガリー・アルベールビル・リレハンメル冬季オリンピックに出場された、アルペンスキーの川端絵美氏を招いての実践を行いました。道徳の時間で講演をし、事前学習として川端氏やアルペンスキーについての情報を、児童に教えていました。また、より深い学びへ結びつけるため、道徳で関連する他の教材を、各学年において実施するといった取組みをしていました。

さらに、事後学習では、講演で学んだことに関する感想を書いた手紙を児童が書き、川端氏へ送りました。藤野中学校では、北京パラリンピックのゴールボール代表、高田朋枝氏を招いた実践を行いました。実践にあたり、総合的な学習の時間を使って、高田氏や、2020 東京オリンピックに出場が期待される他の選手について、調べ学習を行いました。実践当日は、道徳の時間に、高田氏の講演やパラスポーツ体験を行い、実践後は、児童の学びの記録を残すため、学んだことをワークシートに記入させました。どちらの学校からも、日本代表選手が話すことで、より説得力や重みのある言葉が児童に伝わったことや、実践を通して、目標を持って努力することの大切さを学んだり、共生社会について考えるきっかけとなった、などといった成果が報告されました。また、より効果的なオリ・パラ教育を展開するために、他教科や他領域との関連性を持った実践を実施していきたい等の課題も挙げられました。

続いてパラリンピック教育研修会では、「I'mPOSSIBLE」の活用の仕方について、札幌市教育委員会学校教育部教育課程担当課の鈴木氏より説明がありました。その後、講師の北海道ボッチャ協会の樋口氏、石川氏を中心に、ボッチャ・車いすカーリング・障がい者用バイアスロン及びシットスキーの体験会を実施しました。参加した先生方にとって、初めて体験するスポーツが多く、始めは難しいと感じていましたが、次第にコツをつかめるようになると、参加者同士の話し合いも活発になっていました。参加者からは、このような面白いパラスポーツがあるとは知らなかったので、ぜひ子どもたちにも体験させてみたいといった声も寄せられました。



末原 久史 氏



鈴木 圭一 氏



樋口 幸治 氏、石川 英仁 氏



ボッチャ体験の様子



障がい者用バイアスロン、シットスキー、車いすカーリング体験の様子

【 岩手県 ワークショップ 】

日時：2019（平成 31）年 2 月 4 日（月）13：30-16：30

会場：サンセール盛岡「中ホール」

主催：岩手県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：24 名

プログラム：

13：30-13：35 開会の挨拶

岩手県教育委員会事務局 保健体育課 総括課長 荒木田 光孝 氏

13：35-14：45 オリンピック・パラリンピック教育推進校の実践報告・協議・発表

14：45-15：05 講評

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
主幹研究員 吉永 武史 氏

15：05-15：15 休憩

15：15-16：25 シンポジウム「ROAD TO TOKYO 2020」

シンポジスト
サッカー元日本代表 福田 正博 氏
パラリンピックバンクーバー大会 チェアスキー大回転座位日本代表
横澤 高德 氏
コーディネーター
早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
主幹研究員 吉永 武史 氏

16：25-16：30 連絡事項

16：30 閉会

開会行事では、岩手県教育委員会事務局保健体育課総括課長の荒木田光孝氏より挨拶がありました。荒木田氏からは、本事業への参加を通して、岩手県の子どもたちにスポーツの価値を再認識してもらいたい、と本事業の取り組みの方向性についてお話しいただきました。

次に、推進校の先生方に 3～4 名のグループに分かれていただいて、実践報告及び協議が行われました。協議の場面では、本事業を推進するうえで、学校の規模の問題、学校の受け入れ体制の問題、授業や行事との関連付けの必要性、各学校の年間計画との組み合わせ等の課題が挙げられました。また、その解決策として、オリンピック・パラリンピアン講演を全校で行うのではなく、対象を限定して行うことでより深い学びにつなげることができる、等の意見も出ました。



荒木田 光孝 氏



推進校の先生の協議



推進校の先生の発表①



推進校の先生の発表②

続いて、サッカー元日本代表の福田正博氏とパラリンピックバンクーバー大会に出場したチェアスキーの横澤高德氏によるシンポジウムが行われました。コーディネーターは、本センターの吉永主幹研究員が務めました。東日本大震災の記憶、競技生活のこと、2020年の東京大会に向けて、各種学校で講演や実技指導をする際の困難な点等についてお話しされました。福田さんと横澤さん、そして吉永主幹研究員の軽快なリズムのやり取りに、終始盛り上がっている様子でした。しかし、そのような中でも、東日本大震災のことや岩手県の子どもたちや先生方に伝えたいこと等について話が及ぶと、福田さんや横澤さんの一層真剣なまなざしと熱い想いに対して、参加された先生方が聞き入る姿が印象的でした。



講演



参加した教員からの質疑応答

【 埼玉県 ワークショップ 】

日時：2019（平成 31）年 1 月 30 日（水）13：00 分-16：40

会場：ソニックシティビル棟地下 1 階

主催：埼玉県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：約 130 名

プログラム：

13：00-13：05 開会の挨拶

埼玉県教育局教育総務部教育政策課 課長 八田 聡史 氏

13：05-14：05 オリンピック・パラリンピック教育推進校の実践発表

推進校の先生方

14：05-14：20 オリンピック・パラリンピック教育に関する説明

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
研究員 岡田 悠佑 氏

14：20-14：35 休憩

14：35-15：35 トークショー「東京 2020 大会に向けて子供たちに伝えたいこと」

オリンピックロンドン・リオデジャネイロ大会 体操競技日本代表
加藤 凌平 氏
オリンピック北京・ロンドン・リオデジャネイロ大会 体操競技日本代表コーチ
加藤 裕之 氏

15：35-16：35 パラスポーツ体験会（ボッチャ）

埼玉県ボッチャ協会
県立上尾特別支援学校教諭

開会行事では、埼玉県教育局教育総務部教育政策課課長の八田聡史氏より挨拶がありました。次に、推進校の先生方より、実践報告が行われました。各推進校では、オリンピック・パラリンピアン講演だけでなく、異校種間の交流事業、地理や体育の授業を活用したオリ・パラに関連した学習、新聞記事を用いた調べ学習、地域の方々とのパラスポーツ交流等、様々な取り組みが行われたことが報告されました。また、アスリートの招聘等、事業を進めるうえで大変なことも多かったが、その分生徒への影響も大きかったという感想を述べている方も多数いらっしゃいました。

推進校の先生による実践報告の後に、本センターの岡田研究員より、推進校ではない学校の先生方に向けて本事業の概要と実践事例の紹介が行われました。本事業が、東京都以外の国内地域へのオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの波及を意図していることや 2020 年の東京大会の先を見据えた取り組みであること、等が説明されました。



八田 聡史 氏



推進校の先生による報告①



推進校の先生による報告②



岡田 悠佑 研究員

15 分の休憩の後、体操競技のオリンピックである加藤凌平氏と加藤裕之氏によるトークショーが行われました。リオデジャネイロ大会での思い出、オリンピックが他の大会と異なる点、オリンピックでの国際交流の体験、高校時代の生活、そして 2020 年の東京大会への想い等についてお話ししていただきました。

トークショーの後には、埼玉県ボッチャ協会の方々と県立上尾特別支援学校の先生の指導のもとでボッチャの体験会が行われました。ルールや投げる際の工夫等について紹介された後、実際に参加した先生方が 4 つのグループに分かれて対戦形式でボッチャを行いました。初めてボッチャをする方も多く、一投ごとに一喜一憂する姿が見られました。投げたボールがジャックボールの横でぴたりと止まると大きな歓声があがっていました。



ボッチャのルール説明



ボッチャ体験

【 横浜市 ワークショップ 】

日時：2019（平成31）年1月31日（木）15：00-16：45

会場：横浜市南公会堂

主催：横浜市教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：約100名

プログラム：

15：00-15：05 開会の挨拶

横浜市教育委員会事務局指導部 指導企画課長 宮城 篤 氏

15：05-15：50 基調講演「自分の可能性を求めて」

パラリンピック アトランタ・シドニー・アテネ・北京・リオデジャネイロ大会 競泳日本代表
成田 真由美 氏

15：50-16：25 オリンピック・パラリンピック教育推進校事業実施報告①

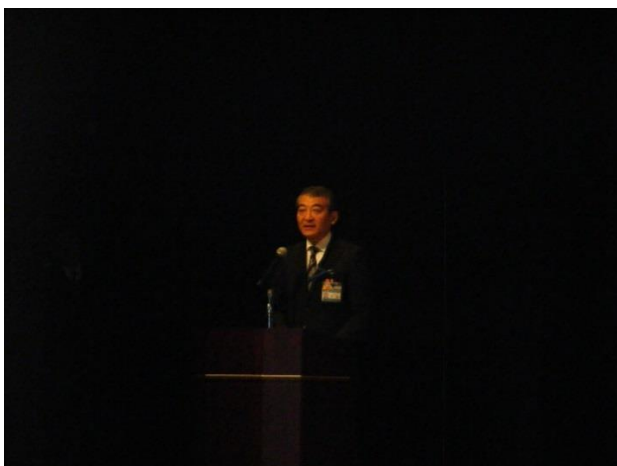
一本松小学校、東野中学校、岡村小学校

16：30-16：45 オリンピック・パラリンピック教育推進校事業実施報告②

横浜市教育委員会事務局 高橋 義成 氏

16：45 閉会の挨拶

開会行事では、横浜市教育委員会事務局の宮城篤氏より挨拶がありました。



宮城 篤 氏



成田 真由美 氏

続いて、競泳のパラリンピアン成田真由美氏の基調講演が行われました。「自分の可能性を求めて」というテーマで行われた講演では、成田さんが障害を負うまでの経緯、障害を負ってから水泳を始める

までの葛藤、そして日常生活の中に存在する様々な障害等について、自らの体験を元にお話しされました。成田さんのユーモアに溢れつつも力強いお話に、会場の参加者は引き込まれている様子でした。

続いて、推進校の先生から実践報告が行われました。

一本松小学校からは、学校における活動（委員会活動、総合的な学習の時間、運動会、体力向上活動）と地域における活動（地域のお祭り）においてオリ・パラ教育に取り組んだ様子について紹介がありました。特に、委員会活動では、集会委員や情報委員による昼休みの「オリ・パラクイズ」の実施や図書委員による図書室へのオリ・パラコーナーの設置等、多様な実践に関する報告がありました。

東野中学校からは、保健体育科の「体育理論」領域での調べ学習、総合的な学習の時間での車いすバスケットボール体験、パラリンピアン永尾嘉章氏（車いす陸上）の講演に関する報告がありました。

岡村小学校からは、体育科や生活科における実践、岡村オリンピックの開催、オリンピックの矢澤航氏（陸上）の講演等に関する報告がありました。



推進校の先生による実践報告①



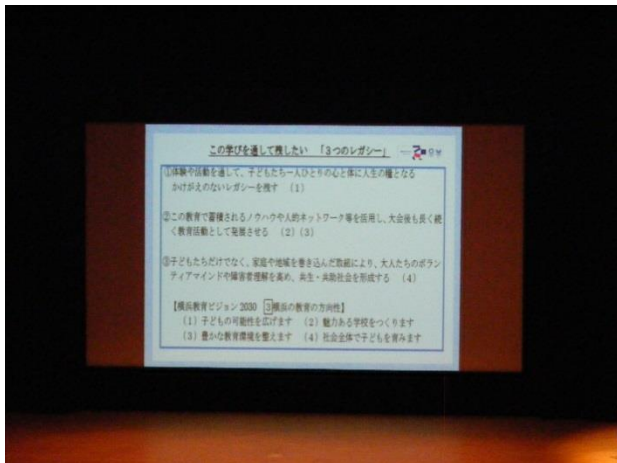
推進校の先生による実践報告②

さらに、横浜市教育局事務局の高橋義成氏より、上述の3校以外の13校の推進校の実践事例の紹介がありました。

最後に、横浜市民局オリンピック・パラリンピック推進課の方から、学校における2020年の東京大会を契機としたスポーツ振興の取り組みについての情報提供がありました。



教育委員会事務局の方による実践報告①



教育委員会事務局の方による実践報告②

【 岐阜県 ワークショップ 】

日時：2019（平成31）年2月6日（水）13：30-16：40

会場：OKB ふれあい会館 7B 研修室

主催：岐阜県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：13 名

プログラム：

13：00-13：10 開会の挨拶

岐阜県教育委員会 体育健康課 教育主管 中川 浩美 氏

13：10-13：20 岐阜県のオリンピック・パラリンピック教育の取り組み

岐阜県教育委員会 体育健康課 学校体育係 課長補佐 中島 昌敏 氏

13：10-14：10 オリンピック・パラリンピック教育推進校の実践報告①

岐南町立北小学校、海津市立大江小学校、郡上市立明宝小学校

14：10-14：25 休憩

14：25-16：00 オリンピック・パラリンピック教育推進校の実践報告②

岐阜本巣特別支援学校、八百津町立八百津中学校
土岐市立泉中学校、高山市立中山中学校

16：00-16：20 オリンピック・パラリンピック教育について

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
研究員 岡田 悠佑 氏

16：20-16：30 諸連絡

岐阜県教育委員会 体育健康課 学校体育係 課長補佐 中島 昌敏 氏

開会行事では、岐阜県教育委員会事務局体育健康課の中川浩美氏より挨拶がありました。東京に比べてなかなかオリンピック・パラリンピックの雰囲気を感じることが難しい環境で、この事業を通して、少しでも子どもたちが身近にオリンピック・パラリンピックを感じてもらいたい、とお話いただきました。

続いて、岐阜県教育委員会事務局の中島昌敏氏より、岐阜県のオリンピック・パラリンピック教育の推進方法についてお話がありました。また、中島氏の発表の中で、岐阜県教育委員会事務局が県内の小・中学校の児童・生徒を対象に独自に行ったアンケート調査結果に関する報告がありました。そこでは、「オリ・パラ教育未実施校が行ってみたい取組」としてスポーツの意義や価値に関する学習が上位にあったり、「オリンピック・パラリンピックの内容・歴史を知りたい」と回答した小学生が多く確認されたりしており、岐阜県の子どものオリ・パラ教育に対する関心の高さを知ることができました。



中川 浩美 氏



中島 昌敏 氏

続いて、推進校の先生方から、実践報告が行われました。それぞれの学校からは、年間の既存の取り組みとオリ・パラ教育を組み合わせる様々な独自の取り組みが報告されました。オリンピック・パラリンピアンによる講演や実技指導はもちろんのこと、体力向上プログラムとの連携（北小学校）、「I'mPOSSIBLE」を活用した授業や運動会との連携（大江小学校）、ホストタウンとの連携（明宝小学校）、ゴールボール体験（岐阜本巣特別支援学校）、人権教育との連携（八百津中学校）、全校で行う朝学習との連携（泉中学校）、修学旅行との連携（中山中学校）等が行われました。また、本センターで作成したパラリンピック教育用デジタル教材「夢に向かって」を活用した実践も報告いただきました。



推進校の先生方による発表

推進校の先生による実践報告の後に、本センターの深見副センター長と岡田研究員より、本事業の概要や他地域のオリ・パラ教育の実践事例等に関する講義が行われました。



深見 英一郎 副センター長



岡田 悠佑 研究員

【 静岡県 ワークショップ 】

日時：2019（平成31）年2月20日（水）14：00-16：30

会場：静岡県産業経済会館 大会議室

主催：静岡県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：36名

プログラム：

14：00-14：05 開会の挨拶

静岡県教育委員会事務局 健康体育課 課長 名雪 元 氏

14：05-14：40 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

副センター長 深見 英一郎 氏

研究員 岡田 悠佑 氏

14：40-15：15 静岡県教育推進指定校における取組について

静岡県教育委員会事務局 健康体育課

学校体育班 鈴木 淳矢 氏

15：15-15：25 休憩

15：25-16：15 グループディスカッション

16：15-16：25 事務連絡

16：25-16：30 講評

静岡大学教育学部 保健体育講座

地域創造学環スポーツプロモーションコース

教授 河合 学 氏

開会行事では、静岡県教育委員会事務局の名雪元氏より挨拶がありました。名雪氏からは、2020年の東京大会の開催は、身近で世界トップレベルのスポーツを感じる貴重な機会であることから、本事業を通して子どもたちにソフト面でのレガシーを残せるように積極的に取り組んでいきたい、と本事業に対する想いをお話いただきました。

続いて、本センターの深見副センター長、岡田研究員より、事業概要や実践事例について説明がありました。特に、各種学校におけるオリ・パラ教育の実践に関しては、既存の様々な取り組みとオリ・パラ教育を関係付けることでレガシーとして残すことができる等、今後のオリ・パラ教育の推進方法に関してお話いただきました。



名雪 元 氏



会場の様子

さらに、静岡県教育委員会事務局の鈴木淳矢氏からは、静岡県におけるオリ・パラ教育の取り組みについて、実践事例を中心に紹介いただきました。



岡田研究員の講義



鈴木氏の講義

10 分の休憩の後、推進校の先生によるグループディスカッションが行われました。具体的には、推進校の先生方に校種別に分かれていただき、各校における取組の紹介や実践の成果と課題について意見交換が行われました。そして、最後に、各グループが話し合った内容について発表が行われました。各グループからは、体育科・保健体育科や道徳科、総合的な学習の時間を活用した実践や、キャリア教育に関連づけた実践の報告が行われました。一方で、事前及び事後学習を行うための時間数の確保の問題やアスリートの方と実技体験をする際の安全面への配慮の問題が課題として挙げられました。最後に、静岡大学の河合学氏より講評をいただき、散会となりました。



グループディスカッション①



グループディスカッション②



河合 学 氏

【 静岡市 ワークショップ 】

日時：2019（平成 31）年 2 月 14 日（水）14：00-16：30

会場：静岡市教育センター中研修室

主催：静岡市教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：127 名

プログラム：

14：00-14：10 開会の挨拶

静岡市教育センター研修係長 石田美紀子氏 静岡市教育センター 研修係長 石田 美紀子 氏

14：10-14：30 全国展開事業の概要と全国のオリ・パラ教育実践事例の紹介

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
研究員 岡田 悠佑 氏

14：30-15：20 パラリンピック選手への取材から見たオリ・パラ教育の魅力

株式会社 WOWOW 制作局 太田 慎也 氏

15：20-15：30 休憩

15：30-16：10 実践事例紹介・来年度の取組等

静岡市立中藁科小学校
静岡市立清水両河内中学校
オリンピック・パラリンピック教育コーディネーター

16：10-16：20 情報交換

16：20-16：30 アンケート記入・閉会

開会行事では、静岡市教育センター研修係長の石田美紀子氏より挨拶がありました。2020 年の東京大会を契機として、オリンピック・パラリンピック、さらにはスポーツについての認識を深めていきたい、という静岡市のオリ・パラ教育の方向性についてお話しされました。

次に、本センターの岡田研究員より本事業の概要と実践事例についての説明がありました。本事業が始まって 3 年が経過し、少しずつ 2020 年の東京大会後のレガシーとして何を残せるのか、ということ意識しながら事業を推進していくことの大切さ等についてお話しされました。

続いて、株式会社 WOWOW の太田慎也氏によるパラリンピアン映像コンテンツ「WHO I AM」の解説や作成の背景、さらには作成の過程で感じたこと等についてのお話がありました。株式会社 WOWOW がパラリンピアン映像コンテンツを作成するに至る背景には、パラリンピアン語りから「多様な肉体から放たれるのは、これが自分だ！という力強い主張」を感じ取り、「パラリンピアン=自分とは誰か？」を考えさせてくれる存在である、という考えを抱いたことがありました。このような考

えのもと、世界トップクラスのパラリンピアン取材と映像化を試みてきたそうです。



会場の様子



岡田 悠佑 研究員

続いて、10分の休憩の後、推進校の先生による実践報告が行われました。

中藁科小学校では、「総合的な学習の時間」を活用してボッチャの体験が行われました。ボッチャの指導員の方を招聘し、ルールや競技の進め方等の説明をしていただきました。その結果、障害の有無や年齢等、様々な人と一緒にスポーツをしたいという児童が増えたそうです。さらに、ウェイトリフティングの選手を招聘した講演会では、事前に映像資料を活用してウェイトリフティングの競技について知る時間を設けました。さらに、講演の場面では、児童の目の前で150kgのバーベルを持ち上げる様子を見たり、子ども用バーベルを活用したウェイトリフティング体験を行ったりしました。その結果、ウェイトリフティングへの理解が深まり、応援したり他の競技に興味を持ったりする児童が増えたそうです。

両河内中学校では、これまで行ってきた福祉施設への訪問事業の中で、生徒と障がいのある方との交流が深まらない、という課題を抱えていました。そこで、本事業を契機に、施設の方と一緒にボッチャを行うことで交流を深める取り組みを行いました。施設訪問を行う前に、ルール等の確認を行いました。そして、実際に、施設訪問の際に施設の方と一緒にボッチャを行ったところ、これまで以上に関わりが深まり、とても楽しく感じた生徒が増えたそうです。

最後に、静岡市の本事業のコーディネーターの黒柳氏より、来年度以降の本事業の方向性等についての説明があり、散会となりました。



「WHO I AM」の説明



実践報告①



実践報告②

【 滋賀県 ワークショップ 】

日時：2019（平成31）年1月22日（火）13：30-16：40

会場：滋賀県庁東館大会議室

主催：滋賀県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：12名

プログラム：

13：30-13：40 開会の挨拶

滋賀県教育委員会事務局 保健体育課 参事 樋口 康之 氏

13：40-14：00 オリンピック・パラリンピック教育推進校の実践報告（皇子山中学校）

14：00-14：30 分科会

14：30-15：30 パラリンピック教育の手法について

日本財団パラリンピックサポートセンター 田代 純一 氏

15：30-15：35 休憩

15：35-16：25 パラスポーツ体験（ボッチャ）

滋賀県ボッチャ協会 事務局長 田中 康隆 氏

16：25-16：40 事業のまとめ

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
研究員 岡田 悠佑 氏

開会行事では、滋賀県教育委員会事務局保健体育課参事の樋口康之氏より挨拶がありました。



樋口 康之 氏



実践校の報告

次に、推進校の先生より、実践報告が行われました。

推進校の先生による実践報告の後に、推進校の取り組みの検討会が行われました。滋賀県では、小学校、中学校、高等学校を対象とした「アスリート招聘事業」と特別支援学校を対象とした「運動機会の充実促進事業」の2つの取り組みを行ってきました。「アスリート招聘事業」は、オリンピック・パラリンピアンを学校に招聘し、講演や実技指導を行っていただく事業です。「運動機会の充実促進事業」は、特別支援学校の児童・生徒の運動量が少ないという問題に対して、パラスポーツ関連の用具や情報を提供し、これまで以上に運動の機会を増やす取り組みをしていただく事業です。検討会では、それぞれの事業ごとに分かれて、具体的な取り組みの内容、実施上困難だったこと等について意見交換が行われました。



分科会の様子①



分科会の様子②

続いて、日本財団パラリンピックサポートセンターの方によるパラリンピック教育用教材「I'mPOSSIBLE」の活用方法に関する講義が行われました。

講義の後には、ボッチャ体験会も行われました。初めてボッチャを体験する方もいらっしゃったことから、まずはルールを確認しながらボッチャを行いました。次に、学校でボッチャを実施する際の工夫の仕方、具体的には学校にある用具を活用したボッチャのコートの作り方や大人数のときのゲームの進め方などについて紹介がありました。先生方は、ボッチャに少しずつ慣れてきて、最後のほうでは、どこを狙ったらよいか、誰からスタートしたらよいか、などの様々なアイディアを出し合いながら、盛り上がっている様子でした。

最後に、本センターの岡田研究員より、まとめの挨拶があり、散会となりました。



ボッチャのルール説明



ボッチャ体験

【 広島県 ワークショップ 】

日時：2019（平成 31）年 2 月 22 日（金）13：00-16：30

会場：広島県立総合体育館 小会議室

主催：広島県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：35 名

プログラム：

13：00-13：05 開会行事

広島県教育委員会事務局教育部 豊かな心育成課 学校体育係 係長 光橋 健 氏

13：05-13：20 平成 30 年度広島県コンソーシアム推進校事業について

広島県教育委員会事務局教育部 豊かな心育成課 学校体育係 指導主事 古井 友樹 氏

13：20-15：15 グループワーク：

オリンピック・パラリンピック教育の今後の取組の充実について（校種別）

小学校担当 広島県教育委員会事務局 豊かな心育成課 指導主事 古井 友樹 氏

西部教育事務所 教育指導課 指導主事 山口 洋平 氏

東広島市教育委員会 指導課 指導主事 清田 美紀 氏

中学校担当 東部教育事務所 教育指導課 指導主事 土田 俊弘 氏

尾道市教育委員会 教育指導課 指導主事 松浦 淳 氏

福山市教育委員会 学びづくり課 指導主事 曾根 貴典 氏

高等学校担当 早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

研究員 岡田 悠佑 氏

15：15-15：25 休憩

15：25-15：45 オリンピック・パラリンピック教育の今後の方向性について

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

研究員 岡田 悠佑 氏

15：45-16：15 オリンピック・パラリンピック教育の前提を考える

広島大学 大学院教育学研究科 健康スポーツ科学講座 教授 齋藤 一彦 氏

16：15-16：25 質疑応答

16：25-16：30 閉会行事

開会行事では、広島県教育委員会事務局の光橋健氏より挨拶がありました。光橋氏からは、本事業をスポーツの意義や価値を再認識する絶好のチャンスと捉え、特にソフト面のレガシーを残すことを広島県に残すことを目指して取り組んでいきたい、と本事業に対する想いをお話いただきました。

次に、広島県教育委員会事務局の古井友樹氏より、本年度の事業の振り返りが行われました。



光橋 健 氏



古井 友樹 氏

続いて、推進校の先生方に校種別に分かれていただき、グループワークが行われました。小学校グループでは、体育授業における態度の育成と関連づけたオリ・パラ教育の実施計画の作成、中学校グループでは、保健体育科を中心としたオリ・パラ教育の他教科への派生のさせ方に関する計画の作成、そして高等学校では、体育理論領域におけるオリ・パラ教育の実施計画の作成を行いました。



グループワーク①



グループワーク②

10 分の休憩の後、本センターの岡田研究員からオリ・パラ教育の今後の方向性についての講演がありました。本事業の概要や他地域の実践事例等について説明がありました。続いて、広島大学の齋藤一彦教授からオリ・パラ教育の前提として、「SPORT FOR TOMORROW」やスポーツを通じた国際開発等について説明がありました。



岡田 悠佑 研究員



齋藤 一彦 氏



会場の様子

【 香川県 ワークショップ 】

日時：2019（平成31）年2月12日（火）14：15-16：45

会場：高松テルサ ホール

主催：香川県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：約120名

プログラム：

14：15-14：20 開会の挨拶 香川県教育委員会事務局保健体育課 課長 渡辺 浩三 氏

14：20-15：25 パネルディスカッション「オリ・パラ教育の可能性」

コーディネーター

香川大学教育学部 教授 山神 眞一 氏

パネリスト

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

センター長 友添 秀則 氏

さぬき市立志度小学校 校長 木村 彰伸 氏

香川県立坂出高等学校 教諭 香川 昌之 氏

香川県立高松第一高等学校 教諭 鎮田 頼宣 氏

15：25-15：35 休憩

15：35-16：45

座談会「オリ・パラ教育から考える新学習指導要領の趣旨を踏まえた体育・保健体育の授業」

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

センター長 友添 秀則 氏

香川大学教育学部 教授 山神 眞一 氏

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

副センター長 深見 英一郎 氏

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

主幹研究員 吉永 武史 氏

16：45 閉会

香川大学教育学部の山神眞一教授をコーディネーターとして「オリ・パラ教育の可能性」というパネルディスカッションが行われました。パネリストとして、本センターの友添秀則センター長と推進校の3名の先生方が登壇されました。鎮田先生からは、体育理論を活用したオリンピック教育の実践についてご報告いただきました。香川先生からは、人権教育と関連付けたパラリンピック教育の実践についてご報告いただきました。木村先生からは、人権教育と関連付けた実践についてご報告いただきました。



渡邊 浩三 氏



山神 眞一 氏



友添 秀則 センター長



推進校の先生の発表

続いて、「オリ・パラ教育から考える新学習指導要領の趣旨を踏まえた体育・保健体育の授業」というテーマで座談会が行われました。山神氏と友添センター長に加え、深見副センター長、吉永主幹研究員を加えた4名の方に登壇いただきました。吉永主幹研究員から新しい学習指導要領の要点を整理しながら、オリ・パラ教育につながる内容についてご説明があり、深見副センター長からは、オリ・パラ教育の取り組みの背景等についてご説明がありました。また、友添センター長からは、新学習指導要領の改訂における「共生」の視点を重視することのねらいについて、そして山神氏からは、新学習指導要領における武道と関連付けたオリ・パラ教育の取り組みについてご説明がありました。さらに吉永氏から、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践事例についてご紹介がありました。



会場



座談会

【 熊本県 ワークショップ（市民フォーラム） 】

日時：2018（平成30）年12月16日（日）13：00-16：20

会場：くまもと県民交流会館パレア

主催：熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、NPO 法人ひとづくりくまもとネット
早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：約 245 名（学校関係者・一般市民等 約 60 名、熊本工業高校・熊本農業高校・大津高校
・熊本西高校・熊本第二高校・済々黌高校等 高校生 約 185 名）

プログラム：

13：00-13：25 早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター作成 DVD 上映
「夢に向かって 車いすアスリートの挑戦」

13：25-13：30 開会挨拶

熊本県教育庁教育指導局 体育保健課長 西村 浩二 氏

13：30-14：30 トークショー

北京オリンピック サッカー男子 U23 日本代表コーチ
井原 正巳 氏

14：30-14：40 休憩

14：40-16：10 シンポジウム「支えるスポーツからオリンピック・パラリンピックムーブメント」
シンポジスト

熊本県教育庁教育指導局 体育保健課主幹兼学校体育係長 濱本 昌宏 氏
沖縄国際大学 講師 慶田花 英太 氏
視覚障害者マラソンガイドランナー 堀内 規生 氏
コーディネーター
熊本大学教授・NPO 法人ひとづくりくまもとネット理事長 中川 保敬 氏

16：10-16：20 閉会行事

開会にあたり、熊本県教育庁教育指導局体育保健課長の西村氏から、「2019 年度は、熊本県でラグビーワールドカップや女子ハンドボール世界選手権大会があり、さらに 2020 年には東京大会が開催されます。スポーツのビッグイベントが続くので、本日のフォーラムをきっかけとして、今後、スポーツが人々の豊かな人生に結びつくことを期待しています。」と、挨拶をされました。

次に、北京オリンピックでサッカー男子 U23 の日本代表コーチを務めた井原正巳氏によるトークショーが開催されました。講演は、井原さんご自身がプレイヤーとして活躍していたときや、監督就任後の経験談を中心とした内容でした。会場には、サッカー部をはじめとした熊本県内の高校生らが多く駆けつけ、厳しいスポーツの世界を体験された方の貴重な話を、熱心に聞いていました。トップの選手は自身の弱点を客観的に判断し、弱点を補うためのプラスアルファの練習を当然のようにしており、そのような影の努力をしなければ強くなれないということや、落ち込んだときは、変えられない結果を悔や

むよりも、前向きに気持ちを切り替えることが大切であるということなどを話して下さいました。質疑応答では、高校生を中心に、「日本代表のキャプテンや、監督になって意識したことはありますか？」など、多くの質問があがりました。質問に対して井原さんからは、チームをまとめる者の役割として、苦しいときこそ叱咤激励してチームの勢いをつけることや、自分ひとりでまとめようとせず、副キャプテンやその他多くの仲間たちにも支えてもらいながら、チームが一丸となるよう努めたと話して下さいました。最後に、スポーツイベントは、ボランティアなしには成立しないほど彼らの影響力が大きく、ボランティアを経験することでトップ選手と交流したり、試合を実際に観戦して、刺激を受けられるというメリットもあるため、ぜひ2020年の東京大会には、積極的に参加してほしいと語って下さいました。

続くシンポジウムは「支えるスポーツからオリンピック・パラリンピックムーブメント」というテーマで行われました。中川氏がコーディネーターを務め、堀内氏が「伴走者としてスポーツを支えている立場」から、慶田花氏が「支えるスポーツを理論的な視点」から、濱本氏が「熊本県のスポーツの状況及びスポーツイベント等の進め方など」について、シンポジストとして講演されました。堀内氏からは、伴走者として視覚障害者のランナーが安全に、かつ全力でコースを走ることができるよう、わかりやすい声かけの仕方を考えながら支えることの難しさや充実感を、慶田花氏からは、10代などの若い世代からボランティアに対する意識や意欲を育成し、生涯にわたってボランティアに携わる人材育成の必要性を、濱本氏からは、熊本県の教育プランや今後のスポーツイベントの実施予定、オリ・パラ事業の実践例紹介や成果などを話していただきました。

最後に中川氏より、ボランティアをすることによって受けた刺激は、新しい自分の夢や目標を見つけることに繋がり、今回のシンポジウムを通して、スポーツを支える人の重要さが再認識されるとともに、ボランティアをうまく活用しながら今後の熊本県のスポーツを盛り上げていきたいというお話がありました。



DVD 上映中の様子



西村 浩二 氏



井原 正巳 氏



シンポジウムの様子



中川 保敬 氏



堀内氏・慶田花氏・濱本氏

2. 全国ワークショップ

日時：2019（平成 31）年 3 月 5 日（火）14：00-17：15

会場：筑波大学東京キャンパス文京校舎／放送大学文京学習センターB1F 会議室

主催：筑波大学、日本体育大学、早稲田大学

参加者：62 名

プログラム：

14：00-14：05 開会あいさつ

スポーツ庁審議官 藤江 陽子 氏

14：05-14：35 各地域拠点におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践事例

筑波大学体育系 助教 大林 太朗 氏

日本体育大学オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

特別研究員 乳井 勇二 氏

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

研究員 岡田 悠佑 氏

14：35-14：50 パラリンピック教育普及啓発事業報告

日本財団パラリンピックサポートセンター 田代 純一 氏

徳留 圭吾 氏

14：50-15：20 関係団体による情報提供

東京 2020 組織委員会 塩見 絢子 氏

東京都教育庁 小宮山 詠美 氏

15：20-15：30 休憩

15：30-16：45 報告会およびグループ討議

16：45-17：15 各グループで議論された内容の報告

17：15-17：20 閉会あいさつ

筑波大学 教授 真田 久 氏

開会行事では、スポーツ庁審議官の藤江陽子氏より挨拶がありました。藤江氏からは、東京大会開催まであと約 500 日という中で少しでも地域にレガシーを残せる取り組みを行っていききたい、とのお話がありました。

次に、全国中核拠点の 3 つの大学から、担当する推進地域の実践事例の紹介がありました。筑波大学からは、「復興五輪に関する実践」、「ボッチャ体験に関する実践」、「関係団体が発行する教材を活用した実践」の紹介がありました。日本体育大学からは、「米の学習を通した多文化共生教育」、「オリンピック・パラリンピックの理念と意義」に関する学習、「パラスポーツに関する年間の取組」等の紹介がありました。早稲田大学からは、「授業と関連づけた実践」、「特別活動と関連づけた実践」、「他の取り組みや

地域と連携した実践」等の紹介がありました。続いて、日本財団パラリンピックサポートセンターの田代氏、徳留氏から、パラリンピック教育用教材「I'mPOSSIBLE」の活用状況等について説明がありました。さらに東京 2020 組織委員会の塩見氏からは「よい、ドン！スクール」の状況やマスコットの派遣事業等について、東京都教育庁の小宮山氏からは、東京都の進めるオリンピック・パラリンピック教育の概要の紹介がありました。



藤江 陽子 氏



会場の様子

10 分の休憩の後、推進校の担当者（主に教育委員会の方）によるグループワークが行なわれました。参加された方々に 7 つのグループに分かれていただき、実践事例やセミナー及びワークショップの実施方法に関する情報共有、そして次年度に向けた課題や展望の検討等が行われました。各グループからは、推進校の募集の段階における広報の仕方の工夫が必要、セミナーやワークショップで推進校の先生方にパラスポーツ体験をしてもらうことで先生方のオリ・パラ教育に対する興味・関心を高めることができる、持続可能な取り組みにしていくためにローリスク・ハイリターンな実践を追及していくことが大切等の意見が出ました。



ワークショップの様子



真田 久 教授

ワークショップ終了後には、筑波大学教授の真田氏から閉会あいさつがありました。真田氏がバッチ IOC 会長とお会いした際に、東京大会以降のレガシーとして残るオリ・パラ教育の実現への期待のお言葉を頂いたエピソードを取り上げ、更なるオリ・パラ教育の実践の充実への抱負を述べられました。

今後に向けて

本事業では、全国の学校におけるオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの推進に向けて、国内 11 の地域の教育委員会等の方々と連携して、以下の 3 つの事業を行いました。

1 つ目は、オリ・パラ教育推進地域を対象としたセミナー並びにワークショップを開催しました。全国セミナー及び各地域セミナーでは、各オリ・パラ教育推進地域の教育委員会及び各オリ・パラ教育推進校の先生方にご参加いただき、本事業の概要やオリ・パラ教育の理念、さらにはそれぞれの地域におけるオリ・パラ教育の方針や具体的な進め方に関して情報共有を行いました。また、各オリ・パラ教育推進地域の実践終了後には、地域ワークショップ並びに全国ワークショップを開催し、オリ・パラ教育の実践の成果及び課題などについて情報共有を行いました。しかし、地域セミナーに参加いただいた先生方の中には、具体的なオリ・パラ教育の実践のイメージに関しては十分に理解が深まらなかった、という方もいらっしゃいました。そのため今後は、実践例を充実させ、オリ・パラ教育の理解がより深まるようなセミナー並びにワークショップを開催していきたいと存じます。

2 つ目は、各オリ・パラ教育推進校におけるオリ・パラ教育実践の支援を行いました。各オリ・パラ教育推進地域では、複数の各種学校をオリ・パラ教育推進校に指定し、オリ・パラ教育が実施されました。本研究センターでは、昨年度に引き続き、オリンピック・パラリンピアンが各オリ・パラ教育推進校で講演や実技指導を行うにあたって、子どもたちの理解をより深めるために事前及び事後指導を行うことを推奨して参りました。そこで、事前及び事後指導のための多様な指導案や教材を作成及び提供し、それらを活用したオリ・パラ教育を実践していただきました。また、昨年度作成したパラリンピック教育を充実させるためのデジタル教材（車いす陸上の副島正純選手を題材にした映像資料）を活用した実践も行っていました。今後も、引き続き事前及び事後指導を充実させるための授業プログラムの開発等を通して、効果的かつ継続的なオリ・パラ教育の実現を目指していきたいと存じます。

3 つ目は、本研究センターのホームページを活用した情報提供を行いました。上記のセミナー並びにワークショップや参観させていただいた実践に関する報告書を随時ホームページに掲載しました。これらの報告書は、ホームページにアクセスすればどなたでもダウンロードできるようになっており、実践を計画する推進校の先生方の参考資料として活用いただけるようにしております。また、ホームページを通して各推進地域の取り組みを全国に紹介することで、本事業をより多くの地域の方々に周知することにも繋がっています。

最後に、本事業の推進メンバーとしてご協力いただいたオリ・パラ教育推進地域の教育委員会並びに関係団体の方々、そしてオリ・パラ教育推進校の先生方には、多大なご支援・ご協力を賜りました。心より御礼申し上げます。関係の皆様方に謝意を示しつつ、本事業が 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会の成功に寄与することを祈念し、結びの言葉とさせていただきます。

平成 31 年 3 月

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
副センター長 深見 英一郎

本事業の構成員

センター長	友添 秀則	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
副センター長	深見 英一郎	早稲田大学スポーツ科学学術院 准教授
主幹研究員	吉永 武史	早稲田大学スポーツ科学学術院 准教授
客員研究員	竹村 瑞穂	日本福祉大学 スポーツ科学部 准教授 早稲田大学スポーツ科学研究センター 招聘研究員
	根本 想	育英短期大学 現代コミュニケーション学科 講師 早稲田大学スポーツ科学研究センター 招聘研究員
研究員	小野 雄大	早稲田大学スポーツ科学学術院 助教
	梶 将徳	早稲田大学スポーツ科学学術院 助教
	青木 彩菜	早稲田大学スポーツ科学学術院 研究助手
	岡田 悠佑	早稲田大学スポーツ科学学術院 研究助手
	東海林 沙貴	早稲田大学スポーツ科学研究センター 招聘研究員

平成 30 年度スポーツ庁委託事業

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

平成 31 年 3 月 31 日

発行： 早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学所沢キャンパス 100-427

TEL/FAX : 04-2947-6724

Web サイト : <https://www.waseda.jp/prj-w-olypara/>
